

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
国語	国語総合	1学年	5単位
目標 (到達目標)	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重しその向上を図る態度を育てる。		
使用教科書	「改訂版 標準 国語総合」第一学習社		
使用副教材等	「学習課題集 改訂版標準国語総合」(第一学習社) 「新訂最新国語便覧」(浜島書店)「常用漢字ダブルクリア」(尚文出版) 「学研現代新国語辞典」(学研)		
目標に向けての 学習活動	毎回の授業に集中して臨み、自分だけの授業ノートを作る。家庭学習は、予習として教科書本文を読み、語句の意味調べをしておくが良い。また、興味のある分野でよいので読書習慣をつける。古典については、あらかじめ本文をノートに書いておくが良い。国語・古語辞典の積極的な利用を心掛けたい。		
授業方法・形態	1年生全員		
実施予定 ○現代文 ●漢文 ◎古文	月	実施内容	評価の観点
	4	○『世界は謎に満ちている』(4時間) ○『体の声を聞く』(6時間)	○論旨を正確に追えたか。 ○登場人物の視点を理解できたか。 ○描写・比喻・オノマトペ等のレトリックの効果を理解することができたか。
	5	○『羅生門』(10時間) ○『とんかつ』(5時間)	◎古文の特色を確認できたか。 ◎当時の価値観をふまえて物語を楽しむことができたか。
	6	○『詩』(5時間) ◎『古文の学習』(4時間) ◎『児のそら寝』(6時間) ●『漢文の学習』(4時間) ●『訓読に親しむ』(6時間) (小計50時間)	●漢文の特色を確認できたか。 ●漢文訓読の決まりを理解したか。 ●漢文の表現に慣れたか。
	7	○『水の東西』(12時間)	○対比の構成をふまえて、文章の内容を理解できたか。
	8	○『日本語万華鏡』(6時間) ○『出来事』(8時間) ○『卒業ホームラン』(12時間)	○登場人物の心情を本文の表現を根拠に想像することができたか。 ○韻文を味わい、心情に迫れたか。
	9	○『短歌・俳句』(7時間) ◎『なよ竹のかぐや姫』(12時間)	○物語世界と日常生活とを結びつけて考えを深めることができたか。 ◎皮肉や風刺を理解できたか。
	10	◎『徒然草』(3時間) ◎『枕草子』(6時間)	◎筆者の感性を理解できたか。 ◎物語の展開を味わうことができたか。
	11	◎『伊勢物語』(5時間) ●『五十歩百歩』(4時間) ●『矛盾』(6時間) (小計75時間)	和歌の意味を理解できたか。 ●故事成語の由来を理解できたか。 ●漢詩の口調で音読できたか。形式と表現を理解したか ●句法を理解、現代語訳できたか。
	12	○『夢十夜』(7時間) ○『人間はどこまで動物か』(10時間)	○登場人物の心理の変化を理解できたか。 ○言語についての考えを深めることができたか。
	1	○『よろこびの歌』(7時間)	○根拠を明確にしながら自分の考えを述べることができたか。
	2	○『イースター島になぜ森がないのか』(6時間)	◎作者の心情を理解できたか。
	3	◎『和歌』(4時間) ◎『奥の細道』(7時間) ●『漁父の利』(4時間) ●『論語』(5時間) (小計50時間)	◎登場人物の心情を理解できたか。 ●登場人物の心情を想像できたか。
成績評価の方法	3回の実力テストと5回の定期考査、提出物、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断して行う。		
履修上の留意点	授業に臨むにあたり、教科書・ノート・便覧・文法書・辞書(国語・古語)を必ず持参すること。		



教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
国語	現代文B	2学年	3単位
目標 (到達目標)	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。		
使用教科書	新編現代文B改訂版(大修館書店)		
使用副教材等	新明解国語辞典(三省堂) 改訂増補最新国語便覧(浜島書店) 明解現代文B改訂版学習課題ノート(大修館書店) 常用漢字ダブルクリア(尚文出版)		
目標に向けての 学習活動	毎回の授業に集中して臨み、自分だけの授業ノートを作る。家庭学習は、予習として教科書本文を読み、語句の意味調べをしておくが良い。また、興味のある分野でいいので、読書習慣をつける。漢字学習を習慣化する。		
授業方法・形態	2年生全員		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	『「きっと叶いますよ」』(4時間) 『「迷う」力のすばらしさ』(4時間)	・筆者や文中に登場する人物の行動や心理を読みとりながら、人間、社会、自然などについて自分の考えを深める。
	5	『ざしきわらし』(6時間) 『ナイン』(6時間)	・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。
	6	『言葉は変わるもの、されど伝承すべきもの』(7時間) 『情報の力関係』(3時間) (小計30時間)	・文章の構成や段落相互の関係を読みとりながら、筆者の主張や内容をとらえる。
	7	『詩』(5時間) 『ゴリラの思いやり』(5時間) 『ウサギの耳はなぜ長い?』(5時間)	・詩歌を音読し、独特のリズムを味わう。 ・詩歌の技法、表現の特色などを理解する。 ・文章の構成や段落相互の関係を読みとりながら、筆者の主張や内容をとらえる。
	8	『人工の自然』(5時間)	・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。 ・文章の構成や段落相互の関係を読みとりながら、筆者の主張や内容をとらえる。
	9	『山月記』(10時間) 『祖母が笑うということ』(5時間)	
	10	『ももこのいきもの凶鑑』(5時間)	
	11	『空飛ぶ魔法のほうき』(5時間) (小計45時間)	
	12	『メディアって何?』(8時間) 『「検索」時代における読書』(12時間)	・文章の構成や段落相互の関係を読み取りながら、筆者の主張や内容をとらえる。
	1	一年間の総まとめ (10時間) (小計30時間)	・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。
	2		
	3		
	成績評価の方法	3回の実力テストと5回の定期考査、提出物(特に漢字練習帳)、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断して行う。	
履修上の留意点	授業に臨むにあたり、教科書・ノート・便覧・辞書を必ず持参すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
国語	現代文B	3学年	3単位
目標 (到達目標)	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。		
使用教科書	明解現代文B改訂版(三省堂)		
使用副教材等	新明解国語辞典(三省堂) 改訂増補最新国語便覧(浜島書店) 明解現代文B改訂版学習課題ノート(三省堂) 常用漢字ダブルクリア(尚文出版)		
目標に向けての 学習活動	毎回の授業に集中して臨み、自分だけの授業ノートを作る。家庭学習は、予習として教科書本文を読み、語句の意味調べをしておくが良い。また、興味のある分野でいいので、読書習慣をつける。漢字学習を習慣化する。		
授業方法・形態	3年生全員		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	『春の小川の思い出』(2時間) 『千年の時が与えてくれる安堵』(2時間)	・筆者や文中に登場する人物の行動や心理を読みとりながら、人間、社会、自然などについて自分の考えを深める。
	5	『山椒魚』(6時間) 『ピクニックの準備』(6時間)	・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。
	6	『科学的というのはどういう方法か』(7時間) 『ホンモノのおカネの作り方』(7時間) (小計30時間)	・文章の構成や段落相互の関係を読みとりながら、筆者の主張や内容をとらえる。
	7	『ユメカサゴ』『永訣の朝』(9時間)	・詩歌を音読し、独特のリズムを味わう。 ・詩歌の技法、表現の特色などを理解する。
	8	『コモリン岬』(7時間) 『なまけものコンプレックス』(7時間)	・文章の構成や段落相互の関係を読みとりながら、筆者の主張や内容をとらえる。
	9	『山月記』(7時間)	・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。
	10	『魚の餌』(7時間)	・文章の構成や段落相互の関係を読みとりながら、筆者の主張や内容をとらえる。
	11	『「自由」のはき違え』(8時間) (小計45時間)	・文章の構成や段落相互の関係を読み取りながら、筆者の主張や内容をとらえる。
	12	『かけがえのない未来』(8時間)	・文章の構成や段落相互の関係を読み取りながら、筆者の主張や内容をとらえる。
	1	『こころ』(12時間)	・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。
	2	一年間の総まとめ(10時間)	・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。
	3	(小計30時間)	
	成績評価の方法	3回の実力テストと5回の定期考査、提出物(特に漢字練習帳)、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断して行う。	
履修上の留意点	授業に臨むにあたり、教科書・ノート・便覧・辞書を必ず持参すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
地理・歴史	地理A	1学年	2単位
目標 (到達目標)	1, 現代世界の地理的諸課題を、地域性をふまえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。 2, 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる一員としての自覚と資質を養う。		
使用教科書	「高等学校地理A」 第一学習社 「現代地図帳」 二宮書店		
使用副教材等	「地理Aノート」 第一学習社		
目標に向けての 学習活動	課題学習を通して探究心を養う。 板書事項を理解する。 与えられたテーマに関する課題に取り組む。		
授業方法・形態	1年生クラス別受講		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	球面上の世界と地図(4時間)	実施内容について理解が深まったか。以下同じ。
	5	グローバル化する現代世界(8時間) 中間考査	
	6	多様化する世界の人々の活動(8時間)	
	7	世界の人々の生活を取りまく環境 (6時間) 期末考査	
	8	世界の諸地域の生活・文化と環境 (2時間) 実力テスト	
	9	世界の諸地域の生活・文化と環境 (8時間)	
	10	世界の諸地域の生活・文化と環境 (8時間) 中間考査	
	11	世界の諸地域の生活・文化と環境 (6時間) 期末考査	
	12	近隣諸国の生活・文化と日本との関係 (6時間)	
	1	さまざまな地域からみた地球的課題 (6時間) 実力テスト	
	2	地球的課題への取り組みと国際協力 (8時間) 期末考査	
	3	追加指導(総計70時間)	
	成績評価の方法	実力テストおよび定期考査、各種提出物、出席状況、授業における課題への取り組み等の状況を判断して行う。	
履修上の留意点	授業にあたっては、教科書・地図帳・ノートを必ず持参すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
地理・歴史	世界史B	2学年	4単位
目標 (到達目標)	近現代を中心とする世界史の大きな枠組みと展開を諸資料から理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる一員としての自覚と資質を養う。		
使用教科書	「新選世界史B」東京書籍 「現代地図帳」二宮書店		
使用副教材等	「明解世界史図説エスカリエ」帝国書院 「新選世界史Bワークノート」東京書籍		
目標に向けて の学習活動	課題学習を通じて理解を深め、探求心を養う。 与えられたテーマに関する課題に取り組む。		
授業方法・形態	A・B・Cの講座別で受講		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	欧米における近代社会の成長 実力テスト (8時間)	実施内容について理解が深まったか。以下同じ。
	5	欧米における近代社会の成長 中間考査 (16時間)	
	6	欧米における近代国民国家の発展 期末考査 (16時間)	
	7	欧米における近代国民国家の発展 (12時間)	
	8	アジア諸地域の動揺 実力テスト (4時間)	
	9	アジア諸地域の動揺 中間考査 (16時間)	
	10	帝国主義とアジアの民族運動 (16時間)	
	11	帝国主義とアジアの民族運動 期末考査 (12時間)	
	12	二つの世界大戦 (12時間)	
	1	二つの世界大戦 (12時間)	
	2	これからの世界と日本 期末考査 (16時間)	
	3	追加指導 (総計140時間)	
	成績評価の方法	・実力テスト、定期考査、提出物、出席状況、授業への取り組み等の状況を総合判断して行う。	
履修上の留意点	・授業に臨むにあたって教科書・図説・ノート・地図帳を毎時用意すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
地理・歴史	日本史B	3学年(選択)	4単位
目標 (到達目標)	我が国の歴史の展開を、諸資料に基づき総合的に考察させ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる一員としての資質を養う。		
使用教科書	「高校日本史B」 実教出版		
使用副教材等	「最新 日本史図表」 第一学習社 「高校日本史B演習ノート」 実教出版		
目標に向けての 学習活動	課題学習を通して探究心を養う。 与えられたテーマに関する課題に取り組む。		
授業方法・形態	世界史との選択履修		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	実力テスト 文化と国家の形成 (8時間)	実施内容について理解が深まったか。以下同じ。
	5	文化と国家の形成 (16時間) 中間考査	
	6	古代国家の確立 (16時間)	
	7	古代国家の確立 (12時間) 期末考査	
	8	中世社会の成立 (4時間) 実力テスト	
	9	中世社会の成立 (16時間)	
	10	中世社会の展開 (16時間) 中間考査	
	11	統一政権の成立 (12時間) 期末考査	
	12	幕藩体制の展開 (12時間)	
	1	幕藩体制の展開 (28時間)	
	2	卒業試験 追加指導	
	3	(総計140時間)	
成績評価の方法	・定期考査、提出物、出席状況、授業への取り組み等の状況を総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	・授業にあたっては、教科書・資料集・演習ノートを必ず持参すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
公民	現代社会	3学年	2単位
目標 (到達目標)	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて多角的に理解させるとともにそれらに関する諸課題について考察させ、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。		
使用教科書	「高等学校新現代社会」帝国書院		
使用副教材等	「高等学校新現代社会ノート」帝国書院 「新編テーマ別資料現代社会」とうほう		
目標に向けての 学習活動	課題学習を通して探求心を養う。 時事的な問題も扱う。		
授業方法・形態	A・B・Cの講座別で受講		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	民主政治の基本原理 (4時間)	実施内容について理解が深まったか。以下同じ。
	5	民主政治の基本原理 中間考査 (8時間)	
	6	日本国憲法と民主主義 期末考査 (8時間)	
	7	日本国憲法と民主主義 (6時間)	
	8	現代政治の現状と課題 (2時間)	
	9	国際政治と日本 (8時間)	
	10	現代社会の変容 中間考査 (8時間)	
	11	現代経済のしくみ 期末考査 (8時間)	
	12	現代経済のしくみ (6時間)	
	1 2 3	国民経済と国際経済 卒業試験 (12時間) (総計70時間)	
成績評価の方法	・定期考査、提出物、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断して行う。		
履修上の留意点	・授業に臨むにあたっては、教科書・資料集・問題集・ノートを必ず持参すること。		



教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位
数学	数学 I	1学年	3単位
目標 (到達目標)	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解を深める。数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばす。数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。		
使用教科書	「新編数学 I」東京書籍		
使用副教材等	「ニューサポート 数学 I」東京書籍		
目標に向けての 学習活動	授業ではしっかりとノートを取り、授業の中で理解しようとする。家庭学習として、予習・復習、宿題・週末課題等にしっかりと取り組み、知識や技能が定着するように努めること。		
授業方法・形態	習熟度別授業		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	第1章 数と式 式と計算(18時間)	整式の加法と減法, 除法, 因数分解が出来るようになったか。
	5	実数(6時間)	実数を理解出来たか。
	6	1次不等式(6時間) (小計30時間)	根号を含む式の計算が出来るようになったか。 1次不等式が解けるようになったか。
	7	集合と命題(11時間)	集合と命題について理解が深まったか。
	8		
	9	第2章 2次関数 2次関数とグラフ(15時間)	2次関数のグラフがかけられるようになったか。
	10	2次関数の値の変化(10時間)	2次関数の最大・最小について理解が深まったか。
	11	2次方程式と2次不等式(9時間) (小計45時間)	2次関数のグラフとx軸の位置関係について理解が深まったか。 2次不等式が解けるようになったか。
	12	第3章 図形と計量 三角比(11時間)	三角比の理解が深まったか。
	1	三角形への応用(9時間)	正弦定理と余弦定理を応用して問題が解けるか。
	2	第4章 データの分析 (10時間)	データの分析について理解が深まったか。
	3	(小計30時間)	
成績評価の方法	定期考査の成績, 小テスト, 宿題や課題帳等の提出物の内容, 学習活動への参加の仕方や態度, 出席状況等を総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	授業に臨むにあたっては, 教科書・ノート・問題集, そしてやる気を用意しておくこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位
数学	数学A	1学年	2単位
目標 (到達目標)	場合の数と確率, 図形の性質及び整数の性質について理解を深める。数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。		
使用教科書	「新編数学A」東京書籍		
使用副教材等	「ニューサポート 数学A」東京書籍		
目標に向けての 学習活動	授業ではしっかりとノートを取り、授業の中で理解しようとする。家庭学習として、予習・復習、宿題・週末課題等にはしっかり取り組み、知識や技能が定着するように努めること。		
授業方法・形態	習熟度別授業		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	第1章 場合の数と確率 場合の数(20時間)	集合について理解が深まったか。
	5		順列と組合せを用いて、場合の数を求めることが出来るようになったか。
	6		事象と確率について理解が深まったか。
	7	(小計20時間) 確率(20時間)	独立な試行と確率及び条件付き確率について理解が深まったか。
	8		
	9	第2章 図形の性質 平面図形(10時間)	
	10		三角形の外心・内心・重心について理解が深まったか。
	11	(小計30時間)	チェバの定理・メネラウスの定理を用いて問題が解けるか。
	12	平面図形(14時間)	円に内接する四角形・円と直線・2つの円について理解が深まったか。
	1		
	2	空間図形(6時間)	空間図形について理解が深まったか。
	3	(小計20時間)	
成績評価の方法	定期考査の成績, 小テスト, 宿題や課題帳等の提出物の内容, 学習活動への参加の仕方や態度, 出席状況等を総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	授業に臨むにあたっては, 教科書・ノート・問題集, そしてやる気を用意しておくこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位
数学	数学Ⅱ	2学年(文理コース)	4単位
目標 (到達目標)	式と証明・高次方程式, 図形と方程式, いろいろな関数及び微分・積分の考え方について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに, それらを活用する態度を育てる。		
使用教科書	「新編 数学Ⅱ」東京書籍		
使用副教材等	「ニューサポート 数学Ⅱ」東京書籍		
目標に向けての 学習活動	授業ではしっかりとノートを取り, 授業の中で理解しようとする。家庭学習として宿題・週末課題等しっかりと取り組み, 知識や技能が定着するように努めること。		
授業方法・形態	習熟度別授業		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	第1章 方程式・式と証明 整式・分数式の計算 (5時間) 2次方程式 (7時間)	3次式の展開と因数分解・多項式の割り算・分数式の計算の仕方が定着したか。
	5	高次方程式(8時間) 式と証明(8時間)	複素数の理解と高次方程式の解法が定着したか。 式と証明についての理解が深められたか。
	6	第2章 図形と方程式 点と直線(12時間) (小計40時間)	図形を解析幾何学的方法で扱う方法とその有用性について, 理解を深めることができたか。
	7	円(8時間) 軌跡と領域(8時間)	
	8	第3章 三角関数 三角関数(20時間)	
	9	加法定理(12時間)	三角関数について理解し, 関数概念の充実がはかられたか。
	10	第4章 指数関数・対数関数 指数関数(6時間)	指数関数・対数関数について理解し, 関数概念の充実がはかられたか。
	11		
	12	第5章 微分と積分の考え 微分係数と導関数(10時間)	微分・積分の考え方を理解し, それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようになったか。
	1	導関数の応用(10時間)	
	2	積分(20時間) (小計40時間)	
	3		
	成績評価の方法	定期考査の成績, 小テスト, 宿題や課題帳等の提出物の内容, 学習活動への参加の仕方や態度, 出席状況等を総合的に判断して行う。	
履修上の留意点	授業に臨むにあたっては, 教科書・ノート・問題集, そしてやる気を用意しておくこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位
数 学	数 学 B	2 学 年 (文理コース)	2 単 位
目 標 (到達目標)	数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		
使用教科書	「新編 数学B」東京書籍		
使用副教材等	「アシストセレクト 数学B」東京書籍		
目標に向けての学習活動	授業ではしっかりとノートを取り、授業の中で理解しようとする事。家庭学習として宿題・週末課題等にしっかりと取り組み、知識や技能が定着するように努めること。		
授業方法・形態	習熟度別授業		
実 施 予 定	月	実施内容	評価の観点
	4	第1章 数列 第1節 数列 (7時間)	*数列の定義と諸用語の意味を理解できたか。また、一般項や和を求めることができたか。
	5	第2節 いろいろな数列 (7時間)	*和の記号 $\Sigma$ の性質を理解し、いろいろな数列の和を求めることができたか。
	6	第3節 漸化式と数学的帰納法 (6時間) (小計20時間)	*漸化式の意味とその扱い方が理解できたか。
	7	第2章 ベクトル 第1節 平面上のベクトル (10時間)	*ベクトルの概念を理解し、表現したり、計算できたか。 *ベクトルを用いて、図形の性質を考察できるようになったか。
	8	第2節 ベクトルの応用 (11時間)	*空間の基本的な知識が身につく、簡単な空間図形について理解できたか。
	9		
	10	第3節 空間におけるベクトル (9時間)	*空間のベクトルについて理解し表現したり、計算できたか。
	11	(小計30時間)	
	12	数学Bの総合演習 (20時間)	*意欲的に取り組めたか。
	1	(小計20時間)	
	2		
3			
成績評価の方法	定期考査の成績、小テスト、宿題や課題帳等の提出物の内容、学習活動への参加の仕方や態度、出席状況等を総合して判断して行う。		
履修上の留意点	授業に臨むにあたっては、教科書・ノート・問題集、そしてやる気を用意しておくこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位
数 学	数 学 Ⅲ	3 学 年 (理系コース)	5 単 位
目標(到達目標)	複素数平面、2次曲線、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		
使用教科書	「新編 数学Ⅲ」東京書籍		
使用副教材等	「アシストセレクト 新編 数学Ⅲ」 東京書籍		
目標に向けての学習活動	授業ではしっかりとノートを取り、授業の中で理解しようとする。家庭学習として宿題・週末課題等にしっかりと取り組み、知識や技能が定着するように努めること。		
授業形態	理系コースの講座での授業		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	1章 平面上の曲線 1節 2次曲線 (16時間)	*2次曲線について、標準形を理解して、曲線の概形がかけられるか。
	5	2節 媒介変数表示と極座標 (15時間)	
	6	2章 複素数平面 1節 複素数平面 (9時間) 2節 複素数の応用 (10時間) (小計50時間)	*複素数平面を理解して、図形に応用できるか。
	7	3章 関数と極限 1節 関数 (10時間)	*学習した関数について理解し、関数概念の充実がはかられたか。
	8	2節 数列の極限 (15時間)	*数列の極限、無限等比数列、無限等比級数について理解できるか。 *関数の極限、連続性について理解できるか。
	9	3節 関数の極限 (15時間) (小計40時間)	
	10	4章 微分 1節 微分法 (10時間) 2節 いろいろな関数の導関数 (11時間)	*微分係数と導関数について理解し、導関数の計算ができるか。 *いろいろな関数の導関数が求められるか。
	11	5章 微分の応用 1節 接線、関数の増減 (14時間) (小計35時間)	*微分法を理解し、それを用いて関数値の増減やグラフの凹凸などを考察し、具体的な事象の考察に活用できるか。
	12	2節 いろいろな微分の応用 (11時間) 6章 積分とその応用 1節 不定積分 (11時間)	*いろいろな関数についての不定積分・定積分が求められるか。
	1	2節 定積分 (13時間)	*積分法を理解し、図形の求積などに活用できるか。
	2	3節 定積分の応用 (15時間)	
	3	(小計50時間)	
評価の方法	定期考査の成績、小テスト、宿題や課題帳等の提出物の内容、学習活動への参加の仕方や態度、出席状況等を総合して判断して行う。		
留意点	定期の宿題として、書き込み式問題集 アシストセレクト数学Ⅲなどを使用する。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数	
理科	物理基礎	2学年(選択者)	2単位	
目標 (到達目標)	物理的な事物・現象についての観察, 実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物事を定量的に考える姿勢を育む。基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的自然観を育成する。			
使用教科書	「改訂版 新編 物理基礎」数研出版			
使用副教材等	「三訂版 リードLightノート 物理基礎」数研出版			
目標に向けての 学習活動	授業ではしっかりとノートを取り、問題集を使って知識の確認・習得をする。家庭学習は、復習を中心に行う方がいい。			
授業方法・形態	講座別授業			
実施予定	月	実施内容	評価の観点	
	4	運動の表し方(6時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速度と加速度について理解できる</li> <li>・落体の運動を理解できる</li> <li>・物体にはたらく力を表現できる</li> <li>・力のつり合いを理解できる</li> <li>・等加速度運動の運動方程式を立てることができる</li> </ul>	
	5	運動の法則(4時間) 中間考査		
	6	運動の法則(10時間) 期末考査 (小計20時間)		
	7	仕事と力学的エネルギー(10時間)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事と力学的エネルギーについての関係を理解できる</li> <li>・力学的エネルギーの保存を理解できる</li> <li>・物体の熱運動や熱のやりとり、熱力学第1法則について理解できる</li> </ul>
	8	熱とエネルギー(6時間)		
	9	中間考査		
	10	波の性質(8時間)		
	11	音(6時間) 期末考査 (小計30時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・波の基本的性質について理解できる</li> <li>・音に関する様々な現象の仕組みを理解できる</li> </ul>	
	12	物質と電気抵抗(10時間) 交流と電磁波(6時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静電気に関する現象やエネルギーについて理解できる</li> <li>・オームの法則や電流回路について理解ができる</li> <li>・電磁波の発生と性質、利用について理解できる</li> <li>・様々なエネルギーとその利用について理解できる</li> </ul>	
	1	エネルギーとその利用(2時間) 物理学が拓く世界(2時間)		
	2	学年末考査 追加指導 (小計20時間)		
	3			
	成績評価の方法	定期考査、定期考査毎の副教材の課題提出、授業への取り組みを総合的に判断して評価を行う。		
履修上の留意点	・授業は、教科書・ノート・ファイル・副教材を用意しておくこと。			



教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
理科	化学基礎	1 学年	2 単位
目標 (到達目標)	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。		
使用教科書	「改訂 新編 化学基礎」東京書籍		
使用副教材等	「基本ステップノート 化学基礎」浜島書店		
目標に向けての 学習活動	授業ではしっかりとノートをとること。家庭学習は、ステップノートを中心に復習を中心に行うと良い。		
授業方法・形態	クラス別授業		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	原子の構造 (5時間) 電子配置と周期表 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の構造を理解できる</li> <li>電子配置とその規則を理解できる</li> </ul>
	5	中間考査	
	6	イオンとイオン結合 (6時間) 金属と金属結合 (2時間) 分子と共有結合 (2時間) 期末考査 (小計20時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオンとは何かを理解できる</li> <li>イオン結合の仕組みを理解できる</li> <li>金属の性質を理解できる</li> <li>共有結合について理解できる</li> </ul>
	7	物質の性質と分離 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>混合物の分離法を理解できる</li> <li>物質の状態変化を理解できる</li> <li>単体と化合物の違いを理解できる</li> <li>原子量と分子量・式量を理解できる</li> <li>物質量について理解できる</li> </ul>
	8	物質の成分 (6時間) 原子量・分子量と物質量 (6時間)	
	9	中間考査	
	10	化学変化の量的関係 (6時間) 酸と塩基 (8時間) 期末考査 (小計30時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学変化と物質量の関係を理解できる</li> <li>酸と塩基とは何かを理解できる</li> <li>pH から酸・塩基の度合いを読み取れる</li> </ul>
	11		
	12	酸と塩基 (6時間) 酸化と還元 (14時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中和反応と中和滴定について理解できる</li> <li>中和反応の計算ができる</li> <li>酸化・還元とは何かを理解できる</li> <li>電池や電気分解の仕組みを理解できる</li> </ul>
	1	学年末考査	
	2	追加指導 (小計20時間)	
	3		
成績評価の方法	定期考査、定期考査毎のステップノートの課題提出、長期休業中の課題提出、実験への取り組み、出欠席等を総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業は、教科書・ノート・ファイル・副教材を用意しておくこと。</li> </ul>		





教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
理科	生物基礎	2 学年	2 単位
目標 (到達目標)	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、目標学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。		
使用教科書	改訂 新編 生物基礎 東京書籍		
使用副教材等	「ニューステージ生物図表」浜島書店 「四訂版リードLightノート 生物基礎」数研出版		
目標に向けての学習活動	学習は授業と、復習を中心に行う。教科書や図録に豊富に掲載してある、図表・写真などを使って、知識を整理・理解する。		
授業方法・形態	2 年生選択者		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー (12時間) 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の多様性と、その共通性について理解できたか</li> <li>生体触媒としての酵素の構造や働きについて理解できたか。</li> <li>光合成や呼吸の反応過程が理解できたか。</li> </ul>
	5		
	6	生物と遺伝子 遺伝情報の分配 (8時間) 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝子の本体である DNA について、構造・役割などが理解できたか。</li> <li>体細胞分裂における遺伝情報の分配について理解できたか。</li> </ul>
	7	遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質の合成	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNA がどのように生物の形質に影響を及ぼすか理解できたか。</li> <li>体内で起こるさまざまな化学反応に体液が関わる事を理解できたか。</li> </ul>
	8	体内環境の維持 (14時間)	
	9	中間考査	
	10	体内環境を保つしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>腎臓や肝臓の構造や機能について理解できたか。</li> <li>ホルモンや自律神経および免疫に関する細胞など、体内の恒常性が維持される仕組みを理解できたか。</li> </ul>
	11	体内環境を守るしくみ (16時間) 期末考査	
	12	植生の多様性と遷移	<ul style="list-style-type: none"> <li>遷移の進行には、植物の光の強さへの適応・土壌中の無機塩類などが関わっていることを理解出来たか。</li> <li>植生や群系の分布と気温や降水量の関係を理解できたか。</li> <li>生態系内における物質循環とエネルギーの流れの関係性を理解できたか。</li> <li>生態系を構成する様々な生物が相互に作用して、生態系の安定が保たれる仕組みを理解できたか。</li> </ul>
	1	バイオームとその分布	
2	生態系とその保全		
3	(19時間) 期末考査 追加指導(1時間)		
成績評価の方法	定期考査、実験報告書、提出物等を総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	授業に臨むにあたっては、教科書・ノート・図表・ファイルを用意しておくこと。		

教科名	科目名	履修学年 (コース)	履修単位数
理科	地学基礎	1 学年	2 単位
目 標 (到達目標)	地域の自然や物、日々起こる自然事象を通し固体地球、地球の変遷、大気・海洋、太陽系と宇宙について学ぶ。また地球環境について物質循環、気候変動等を学ぶことを通し、環境課題と人類の活動について考察を深める。地学分野の基本的概念や原理・法則を理解し科学的思考、ものの見方を身につけ、今後の自分たちの暮らしについて考察を深めることを目標とする。		
使用教科書	実教出版 地学基礎 新訂版		
使用副教材等	実教出版 地学基礎 新訂版 演習ノート		
目標に向けての 学習活動	地域の自然や物に触れるといった身の回りの生活からスタートし、様々な自然現象について学ぶ。実験・実習、観察を通し時空間的把握や、総合的に考察するといった視点を基本とする。		
授業方法・形態			
実施予定	月	実 施 内 容	評価の観点
	4	はじめに (導入) 宇宙・地球・人間 (1年間の学習概観) (3時間) 自然の見方、探求方法 現在の環境課題 (1時間) (小計 4時間)	太陽系内の地球の位置と環境課題、探求の視点について。
	5	地球の構成と運動 地球の形と大きさ (3時間) 地球の内部構造 (5時間) (小計 8時間)	固体地球としての大きさ、内部の特徴、様々な地殻変動について理解する。
	6	火山・地震活動 (5時間) プレート運動 (3時間) (小計 8時間)	
	7	地球の変遷 地層と岩石 (5時間) 古生物と化石 (1時間) (小計 6時間)	
	8	古生物の変遷と地球環境 地球環境の変遷と地質時代区分 (1時間) 生命誕生～化学進化 (1時間) (小計 2時間)	様々な地層、岩石そして化石、古生物の特徴、意義を把握する。
	9	生物進化と古生物 (5時間) 大量絶滅 (1時間) ほ乳類と人類の発展 (1時間) (小計 7時間)	
	10	大気と海洋 大気の構造と運動 (小計 8時間)	大気と海洋の循環について様々なスケールで理解を深める。エネルギー収支についても理解を深める。
	11	日頃の気象現象-長野県及び日本の天気の移り変わり (1時間) 大気圏の構造 大気の循環 (2時間) 天気図 気圧配置 低気圧高気圧 (2時間) 雲発生、降雨の仕組み 気候変動と気象災害 (2時間) (小計 7時間)	
	12	太陽系と宇宙 太陽系の中の地球 (4時間) 太陽とその進化 (4時間) (小計 8時間)	太陽系の特徴、宇宙誕生から現在迄の変遷を大まかにつかむ。
	1	宇宙の姿 (小計 6時間)	
	2	地球の環境 日本列島の自然の特徴 (2時間) 地域の自然の特徴とその恩恵、災害 (1時間) 地球規模の物質循環 (2時間) 環境課題と未来の地球 (1時間) (小計 6時間)	様々な環境課題について知り未来の地球についての展望を考察する。
成績評価の方法	定期考査、実験・実習、課題提出物等を総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	授業に臨むに当たっては、教科書・ノート・筆記用具を用意しておく。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
理科	物理	3学年(選択者)	4単位
目標 (到達目標)	物理的な事物・現象についての観察, 実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と姿勢を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		
使用教科書	「物理」数研出版		
使用副教材等	「リードLightノート物理」数研出版		
目標に向けての 学習活動	授業ではしっかりとノートを取り、問題集を使って学習の定着の確認をする。グループ等で実験も行う。家庭学習は、復習を中心に行うほうがいい。		
授業方法・形態	講座別授業(3年物理選択者)		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	剛体(10時間)	・回転を伴う物体の運動や剛体にはたらく力の概念を理解できる
	5	運動量の保存(10時間) 中間考査	・運動量と力積の概念や両者の相関性を理解できる
	6	円運動と万有引力(14時間) 気体のエネルギーと状態変化(6時間) 期末考査	・等速円運動と単振動ならびに両者の相関性について理解できる ・万有引力の概念を理解できる
	7	気体のエネルギーと状態変化(6時間) 正弦波(6時間)	・気体の状態方程式や熱力学第1法則について理解できる
	8	音波の伝わり方(8時間) 光(12時間)	・音の性質とドップラー効果等について理解できる ・レンズの仕組みや光の干渉、光波の性質について理解できる
	9	中間考査	
	10	電場(14時間)	・電場や電位を理解できる
	11	電流(14時間) 期末考査	・コンデンサーの仕組みを理解できる ・電流とは何かを理解できる
	12	電流と磁場(14時間)	・電流と電流が発生させる磁場の関係を理解できる ・ローレンツ力について理解できる
	1	原子, 電子と物質の性質(10時間) 電子と光(10時間)	・原子や電子と物質の物理的性質を理解できる
	2	原子と原子核(6時間) 学年末考査	・粒子としての光の性質を理解できる ・放射線や核エネルギーについて理解できる
	3	追加指導	・素粒子について理解できる
成績評価の方法	定期考査、授業への取り組み等を総合的に評価する。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、教科書・ノート・ファイル・問題集を用意しておく。</li> <li>・入試の前には、必要に応じ入試対応授業を行うことがある。</li> </ul>		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
理科	化学	3学年	4単位
目標 (到達目標)	化学的な事物・現象についての観察, 実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。最初に「化学基礎」の内容を再確認し「化学」に入る。		
使用教科書	「改訂 新編化学基礎 東京書籍」及び「改訂 新編化学 東京書籍」		
使用副教材等	「三訂版リードLightノート化学」数研出版		
目標に向けての 学習活動	授業中はしっかりとノートを取り、不明な点は演習時間に積極的に質問し、理解に努める。家庭学習等復習に心がけ知識の確認定着をはかる。		
授業方法・形態			
	月	実施内容	評価の観点
	4	粒子の概念、化学結合、酸塩基・酸化還元(8時間)	化学に関して基礎的な理解が身についているか。
	5	状態変化、気体の性質、溶解平衡、希薄溶液の性質、コロイド(16時間)	水の状態変化、気体の状態方程式について理解できたか。溶液の凝固点降下などについて理解できたか
	6	固体と結晶、結晶の構造、反応熱と熱化学方程式、ヘスの法則、光とエネルギー(16時間)	結晶の性質・構造について理解できたか。化学反応とエネルギーの関係を学ぶ中でエネルギー保存則について理解できたか
	7	電池、水溶液の電気分解、反応の速さ、反応速度を変える条件、反応のしくみ、(12時間)	電池から電力を取り出すしくみや、その逆の電気分解のしくみについて理解できたか。
	8	可逆反応と化学平衡、平衡の移動電離平衡(4時間)	様々な化学反応を平衡という視点から捉え直すことができたか
	9	水の電離平衡とpH、塩と化学平衡(16時間)	弱酸、弱塩基、塩の水溶液の性質など化学基礎で扱った内容を平衡の視点から理解できたか
	10	非金属元素、典型金属元素、遷移元素、無機物質と人間生活(16時間)	様々な元素の性質について周期表を元に理解することができたか
	11	有機化合物の特徴と分類、脂肪族炭化水素、有機化合物の分析アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン(16時間)	官能基を元に無数にある有機化合物の性質を推測できるようになったか。
	12	カルボン酸、油脂とセッケン、芳香族炭化水素、酸素を含む芳香族化合物、窒素を含む芳香族化合物(12時間)	官能基を元に無数にある有機化合物の性質を推測できるようになったか。
	1	染料・医薬品、合成洗剤、食品、高分子化合物の分類と特徴、糖類、多糖類、アミノ酸、タンパク質、核酸(12時間)	より複雑な有機化合物や身近な有機化合物について、基礎的な理解ができたか。
	2	合成繊維、プラスチック、ゴム、機能性高分子、プラスチックの廃棄処理(11時間)	高分子化合物について基礎的な理解ができたか。
	3	学年末考査 追加指導(1時間)	
成績評価の方法	定期考査、実験報告書、出席状況、授業態度等を総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	授業に臨むにあたっては、教科書・ノート・ファイルを用意しておくこと		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
理科	生物	3 学年	4 単位
目標 (到達目標)	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見自然観を育成する。		
使用教科書	「スタンダード生物」東京書籍		
使用副教材等	「改訂版 フォトサイエンス生物図録」数研出版 「三訂版 リードLightノート生物」数研出版 「センター生物基礎単元別問題集」駿台文庫		
目標に向けての 学習活動	授業ではしっかりとノートを取り、図表などを使って知識の確認をすること。家庭学習は、復習を中心に行うほうがいい。生物基礎の内容とのつながりを意識して学習を行う。		
授業方法・形態	3 年生選択者		
	月	実施内容	評価の観点
実施予定	4	生体物質と細胞(8時間)	タンパク質を中心とした生体構成とその構造、酵素等の働きについて理解できたか。細胞の構造と働き、細胞活動に関わる多様なタンパク質の働きについて理解できたか。代謝の基本である呼吸、光合成を理解できたか。
	5	生命現象を支えるタンパク質、代謝とエネルギー(16時間)	遺伝子DNAの構造や、その複製・情報発現等の機構を理解できたか。遺伝子に関する知識を応用した技術について基礎的な理解が出来たか。
	6	DNAの構造と複製、遺伝情報の発現、遺伝子の発現調節、バイオテクノロジー(16時間)	減数分裂が、どのように遺伝情報を配偶子に分配し、多様な組み合わせを作り出すのかを理解できたか。遺伝の原理について理解できたか。
	7	多様な固体が生じる有性生殖(8時間)	動物の配偶子形成～受精～初期発生の一連の過程やその特徴を理解できたか。
	8	動物の発生(4時間)	胚葉や組織の分化について理解できたか。ニューロンの働き方や、様々な刺激を受け取る受容体の仕組みを理解できたか。
	9	動物の発生のしくみ、植物の発生(16時間)	効果器の構造や、外部刺激に対して反応する過程を理解できたか。動物が、その神経系の発達に応じて次第に複雑な行動をするようになるしくみを理解できたか。植物ホルモンによる様々な現象の調節を理解したか。同種個体群内や異種個体群間での個体間関係を整理し、理解できたか。
	10	動物の刺激の受容と反応、動物の行動(16時間)	生態系における物質生産の重要性を理解できたか。生物多様性について現在問題になっている理由を理解できたか。原始地球での生命の起源、その後の地球環境の変化と生物の進化を理解できたか。「進化」という現象に関して正しい理解ができたか。多様な生物の分類と系統を理解し、原核生物～動物までの様々な分類群の特徴を理解できたか。
	11	植物の環境応答、生物の多様性と生態学、個体群と生物群集(16時間)	
	12	生態系の物質生産とエネルギーの流れ、生態系と生物多様性(12時間)	
	1	生命の起源と生物の変遷、進化のしくみ(12時間)	
	2	生物の系統(16時間)	
	3	学年末考査	
			合計(140時間)
成績評価の方法	定期考査、授業への取り組み、提出物等を総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	授業に臨むにあたっては、教科書・ノート・図表・ファイル・副教材を用意しておくこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
理科	地学	3学年(選択者)	4単位
目標 (到達目標)	地学基礎の学習発展として地学的な事象についてさらなる知識、自然事象に対する関心や探求心を高める。また地球環境について物質循環の視点、気候変動等を学ぶことを通し、環境やエネルギー課題といった人類的課題解決へ向けての意識の涵養育成もはかる。		
使用教科書	「地学」数研出版		
使用副教材等			
目標に向けての学習活動	地域の自然や身の回りの実物に触れる機会を多くし様々な自然現象について学ぶ。実験・実習、観察も行い、時空間的把握、総合的に考察するといった視点を追求する。新聞やニュースなどで報道される地学的事象についても日頃の授業の中でとりあげて総合的に学んでいく。		
授業方法・形態	講座別授業(3年地学選択者)		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	<b>地学と人間活動</b> (導入)(2時間) <b>地球の構成、内部エネルギー</b> :地球の形と重力(4時間)/重力異常と地球の内部(2時間)(小計8時間)	地球の形と重力の関係、重力異常と地下構造の関係等の関係を理解できる。
	5	地球の内部構造(2時間)/地磁気、地殻熱流量(4時間) <b>地球の活動</b> :プレートテクトニクス・プレリウムテクトニクス(6時間)/地震(4時間)(小計16時間)	地球内部構造と内部からのエネルギーの流れ、地磁気の原因について概要を理解しているか。 プレートテクトニクスの特徴を理解できているか。
	6	地震(4時間)/火山(6時間)/県内の地震及び火山活動と災害(3時間)/変成作用と造山運動(3時間)(小計16時間)	地震・火山・変成作用の知識と災害の概要を理解したか。ハザードマップを読み解けるか。
	7	<b>地球表層付近の地学</b> :岩石の風化(4時間)/砕屑粒子と運搬・堆積(4時間)/地層の形成と堆積岩/地層の観察(4時間)(小計12時間)	砕屑物、地層、砕屑岩の特徴を理解したか。
	8	野外調査と地質図(3時間)(小計3時間)	地質図を読み取れるか。
	9	<b>地球環境と地史</b> :地質年代(3時間)地球環境と生物変遷(6時間)/日本列島の地体構造と生きたち(3時間) <b>地球大気と海洋</b> :大気の構造(3時間)(小計15時間)	地史を生物進化の特徴を理解したか。 大気と海洋の概要をつかめたか。
	10	大気大循環(3時間)/対流と水蒸気(3時間)/気象現象(3時間)/世界の気象気候(1時間)/海洋と海水の運動(2時間)海洋大循環(1時間)大気と海洋の相互作用水や炭素の循環(1時間)(小計14時間)	物質循環の視点と環境課題を理解したか。  太陽系天体についての運動、特徴が理解できるか。
	11	<b>宇宙</b> :太陽系の天体(4時間)/地球の自転と公転(4時間)/惑星の運動(4時間)/太陽の活動(4時間)(小計16時間)	恒星の特徴が理解できるか。
	12	恒星の性質(4時間)/恒星の進化(4時間)/星団(4時間)星間物質と星間雲(2時間)(小計14時間)	
	1	星間物質と星間雲(2時間)/宇宙と銀河(4時間)/銀河の世界(4時間)宇宙観の発展(4時間)(小計14時間)	宇宙進化が理解できるか。
	2	宇宙観の発展(2時間) <b>1年のまとめ</b> :地球の構成・内部エネルギー/地球の活動/大気・海洋/地球表層の水とその役割/地球環境と歴史/宇宙(8時間)/地球惑星科学と人類(2時間)(小計12時間)	1年間のまとめとして自然界の諸現象をその大きさ、歴史、そして総合的に地学的にとらえることができるか。
	3	追加指導	
	成績評価方法	定期考査、授業への取り組み等を総合的に評価する。	
履修上留意点	・授業は、教科書・ノート・配布資料等を用意しておく。 ・上級学校入試の前には、必要に応じ入試対策の授業を行うこともある。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
保健体育	保健	1学年	1単位
目標 (到達目標)	個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。		
使用教科書	「現代高等保健体育」 大修館書店		
使用副教材等	「現代高等保健体育ノート」 大修館書店		
目標に向けての 学習活動	個人生活や社会生活における健康・安全に関する事柄に興味・関心をもち、科学的に思考・判断し、総合的にとらえることができるようにする。		
授業方法・形態	クラス別で受講する		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	○オリエンテーション	疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理することが及び環境を改善していくことが重要であることを理解できたか。
	5	1 現代社会と健康 ・私たちの健康のすがた ・健康のとらえ方 ・健康と意思決定・行動選択	
	6	・健康に関する環境づくり ・生活習慣病とその予防 ・薬物乱用と健康	
	7	・喫煙と健康 ・飲酒と健康	
	8	○1学期期末考査 (小計10時間)	
	9	・休養・睡眠と健康 ・食事と健康 ・運動と健康	
	10	・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防	
	11	・欲求と適応機制 ・心身の相関とストレス ・ストレスへの対処 ・心の健康と自己実現	
	12	○2学期期末考査 (小計15時間)	
	1	・交通事故の現状と要因 ・交通社会における運転者の資質と責任 ・安全な交通社会づくり ・応急手当の意義とその基本	
	2	・心肺蘇生法 ・日常的な応急手当	
	3	○学年末考査 (小計10時間)	
成績評価の方法	年3回の期末考査、毎時間のノート提出、授業への取り組みを総合的に判断する。		
履修上の留意点	授業が始まる前には、自分の教科書・ノートを必ず用意すること。		



教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
保健体育	保健	2学年	1単位
目標 (到達目標)	個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。		
使用教科書	「現代高等保健体育」 大修館書店		
使用副教材等	「現代高等保健体育ノート」 大修館書店		
目標に向けての 学習活動	個人生活や社会生活における健康・安全に関する事柄に興味・関心をもち、科学的に思考・判断し、総合的にとらえることができるようにする。		
授業方法・形態	A. B. Cの講座別で受講する		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	○オリエンテーション	生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であると理解できたか。  社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、県境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できたか。
	5	2 生涯を通じる健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・結婚生活と健康 ・妊娠・出産と健康 ・家族計画と人工妊娠中絶 ・加齢と健康 ・高齢者のための社会的取り組み	
	6		
	7	○1学期期末考査 (小計10時間)	
	8		
	9	・保健制度とその活用 ・医療制度とその活用 ・医薬品と健康 ・さまざまな保健活動や対策	
	10	3 社会生活と健康 ・大気汚染と健康 ・水質汚濁と健康 ・土壌汚染と健康 ・健康被害の防止と環境対策 ・環境衛生活動のしくみと働き	
	11	○2学期期末考査 (小計15時間)	
	12	・食品衛生活動のしくみと働き ・食品と環境の保健と私たち ・働くことと健康 ・労働災害・職業病と健康 ・健康的な職業生活 ・はたらく人の健康増進	
	1		
	2	○学年末考査 (小計10時間)	
	3		
成績評価の方法	年3回の期末考査、毎時間のノート提出、授業への取り組みを総合的に判断する。		
履修上の留意点	授業が始まる前には、自分の教科書・ノートを必ず用意すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
保健体育	体育	1学年	3単位
目標 (到達目標)	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。		
使用教科書	現代高等保健体育 (大修館書店)		
使用副教材等	現代高等保健体育ノート (大修館書店)		
目標に向けての 学習活動	義務教育段階で培った基礎的な運動の技能や知識を生徒の状況に応じて伸長させるとともに、それらを活用して、自らの運動課題を解決するなどの学習をバランスよくこなす。		
授業方法・形態	クラス別で受講。基本的には1学級を2講座に分けて展開する。		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	・オリエンテーション ・体づくり運動	<b>(1) 技能</b> 中学校第3学年からの接続を踏まえ、主に身に付けた技能や動き等をより高めたり、新たに得意技を身に付けたりして、攻防や動きの様相を高めて、記録や技に挑戦したり、簡易化されたゲームの制限を次第に正規に近づけるなどして試合したり、発表したりできるようになったか。  <b>(2) 態度</b> ・中学校までの学習を再確認し、学習への意欲を一層もてるように自主的に取り組めたか。 ・審判の判定や勝敗の結果にかかわらず相手を尊重したり、ルールやマナーの意義を踏まえて相手を大切にしようとしたり、人にはそれぞれ違いがあることを認めた上で、仲間の演技の良さを指摘したり、仲間の五能の程度にかかわらず、課題を共有して互いに助け合ったり教え合ったりできたか。 ・仲間やチームに対して、役割を積極的に引き受けたり、話し合いを通して合意形成に貢献しようとしたか。 ・自己の体調の変化に加えて、天候や気温の変化などを予見して危険を回避し、ケガや疾病を未然に防ぐことができたか。
	5	・球技(ベースボール型) ・球技(ゴール型)	
	6	・武道  <div style="text-align: right;">&lt; 30時間 &gt;</div>	
	7	・水泳	
	8	・陸上競技	
	9	・球技(ネット型) ・器械運動	
	10	・球技(ゴール型) ・武道	
	11	  <div style="text-align: right;">&lt; 45時間 &gt;</div>	
	12	・体づくり運動	
	1	・球技(ネット型) ・球技(ゴール型)	
	2	・体育理論  <div style="text-align: right;">&lt; 30時間 &gt;</div>	
	3		
	成績評価の方法	各単元に設定された評価規準に沿って、PDCAサイクルの取り組みを重視した毎時間の評価を総合的に判断する。	
履修上の留意点	指定された服装で参加すること。遅刻・見学は必ず理由を申し出ること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
保健体育	体育	2学年	3単位
目標 (到達目標)	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。		
使用教科書	現代高等保健体育 (大修館書店)		
使用副教材等	現代高等保健体育ノート (大修館書店)		
目標に向けての 学習活動	義務教育段階で培った基礎的な運動の技能や知識を生徒の状況に応じて伸長させるとともに、それらを活用して、自らの運動課題を解決するなどの学習をバランスよくおこなう。		
授業方法・形態	A. B. Cの講座別で受講。基本的には男女共習とする。		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	・オリエンテーション ・体づくり運動	<p>(1) 技能 生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続することを目指して、主に身に付けた技能や動き等をさらに高めたり、新たに得意技を身に付けたりして、攻防や動きの様相を高めて、記録や技に挑戦したり、ルールを一層正規に近づけるなどして試合したり、発表したりできるようになったか。</p> <p>(2) 態度 ・中学校までの学習を再訴確認し、学習への意欲を一層もてるように自主的に取り組めたか。 ・審判の判定や勝敗の結果にかかわらず相手を尊重したり、ルールやマナーの意義を踏まえて相手を大切にしようとしたり、人にはそれぞれ違いがあることを認めた上で、仲間の演技の良さを指摘したり、仲間の五能の程度にかかわらず、課題を共有して互いに助け合ったり教え合ったりできたか。 ・仲間やチームに対して、役割を積極的に引き受けたり、話し合いを通して合意形成に貢献しようとしたか。 ・自己の体調の変化に加えて、天候や気温の変化などを予見して危険を回避し、ケガや疾病を未然に防ぐことができたか。</p> <p>(3) 知識、思考・判断 ・勘や直感、経験に基づく知恵などの暗黙知をも含めた知識の理解をもとに運動の技能を身に付け、一層その理解を深めることができたか。 ・多くの運動の中から、自らに適した領域を選択し、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するために、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、必要となる課題の解決ができたか。</p>
	5	・球技(ベースボール型) ・球技(ゴール型)	
	6	・武道 ＜30時間＞	
	7	・水泳	
	8	・陸上競技 ・球技(ネット型)	
	9	・器械運動 ・球技(ゴール型)	
	10	・武道 ＜45時間＞	
	11		
	12	・体づくり運動 ・球技(ネット型)	
	1	・球技(ゴール型) ・体育理論	
	2	＜30時間＞	
	3		
成績評価の方法	各単元に設定された評価規準に沿って、PDCAサイクルの取り組みを重視した毎時間の評価を総合的に判断する。		
履修上の留意点	指定された服装で参加すること。遅刻・見学は必ず理由を申し出ること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
保健体育	体育	3学年	2単位
目標 (到達目標)	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。		
使用教科書	現代高等保健体育 (大修館書店)		
使用副教材等	現代高等保健体育ノート (大修館書店)		
目標に向けての 学習活動	授業に積極的に取り組むとともに、健康・安全に留意して運動技能を高める。		
授業方法・形態	A. B. Cの講座別で受講。		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	オリエンテーション 体づくり運動 球技(ベースボール型) 水泳 [小計20時間]	(1) 技能 生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続することを目指して、主に身に付けた技能や動き等をさらに高めたり、新たに得意技を身に付けたりして、攻防や動きの様相を高めて、記録や技に挑戦したり、ルールを一層正規に近づけるなどして試合したり、発表したりできるようになったか。
	5		(2) 態度 ・中学校までの学習を再訴確認し、学習への意欲を一層もてるように自主的に取り組めたか。 ・審判の判定や勝敗の結果にかかわらず相手を尊重したり、ルールやマナーの意義を踏まえて相手を大切にしようとしたり、人にはそれぞれ違いがあることを認めた上で、仲間の演技の良さを指摘したり、仲間の五能の程度にかかわらず、課題を共有して互いに助け合ったり教え合ったりできたか。 ・仲間やチームに対して、役割を積極的に引き受けたり、話し合いを通して合意形成に貢献しようとしたか。 ・自己の体調の変化に加えて、天候や気温の変化などを予見して危険を回避し、ケガや疾病を未然に防ぐことができたか。
	6		(3) 知識、思考・判断 ・勘や直感、経験に基づく知恵などの暗黙知をも含めた知識の理解をもとに運動の技能を身に付け、一層その理解を深めることができたか。 ・多くの運動の中から、自らに適した領域を選択し、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するために、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、必要となる課題の解決ができたか。
	7	水泳 陸上競技 球技(ネット型) [小計30時]	
	8		
	9		
	10		
	11		
	12	球技(ゴール型) 体育理論 [小計20時間]	
	1		
	2		
	3	追加指導	
成績評価の方法	授業への出席、技能の向上、集団技能、授業への取り組み等を総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	ジャージ等、運動に適した服装で授業にのぞむこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数	
芸術	音楽 I	1 学年	2 単位	
目 標 (到達目標)	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。			
使用教科書	「高校生の音楽1」 教育芸術社			
使用副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽通論 教育芸術社</li> <li>・ 「MUSIC NOTE」 株式会社啓隆社</li> </ul>			
目標に向けての 学習活動	基礎的技能と創造的な表現力を伸ばし、主体的に音楽を楽しむ姿勢をもちながら、様々な形態(全体、グループ等)の活動に取り組む。			
授業方法・形態	クラス別			
実施予定	月	実施内容	評価の観点	
	4	歌唱(4時間)	積極的に声を出し、表現を工夫して歌うことができたか。	
	5	合唱(8時間)		
	6	リズム学習(リズムアンサンブル、創作)(8時間) (小計20時間)	簡単なリズムを使ってアンサンブルや創作をすることができたか。	
	7	オルガン合奏(6時間)	楽譜を正しく読み、オルガンを演奏できたか。	
	8	ミュージックベル(2時間)	ミュージックベルの奏法を身につけ、グループで協力してまとまった演奏ができたか。	
	9 10	ギターの基礎(16時間)	ギターの基本的な奏法や楽譜の見方を身につけることができたか。	
	11	歌唱(6時間) (小計30時間)	歌詞の内容や発音を意識しながら、積極的に表現することができたか。	
	12	鑑賞(6時間)	楽曲の背景を知り、雰囲気や曲想の変化を感じ取って聴くことができたか。	
	1 2 3	アンサンブル発表会の準備と実施 (14時間) (小計20時間) (総計70時間)	楽器の奏法を習得し、グループで協力して表現を工夫できたか。	
	成績評価の方法	実技、プリント課題、出席状況、授業への取り組み状況を総合的に判断しておこなう。		
	履修上の留意点	授業には「主体的に参加する」という姿勢で臨むこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
芸術	美術 I	1 学年	2 単位
目標 (到達目標)	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。		
使用教科書	高校美術 1 (日本文教出版)		
使用副教材等			
目標に向けての 学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中は常に『完成度の高い作品(自分のイメージに近づける)にするにはどうしたらよいか』を考えながら行動する。</li> <li>日常生活の中でも、色や形(美しい、面白い)に興味を持つとよい。</li> </ul>		
授業方法・形態	1 年生選択者(クラス別)		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	基本的技術の習得 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な仕事ができたか</li> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> </ul>
	5	デザイン(文化祭キャラクターの制作) (16時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>たくさんアイデアを出せたか</li> <li>丁寧な仕事をしたか</li> </ul>
	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報(日時、テーマ等)がみる人に伝わる作品になったか</li> <li>独創的で完成度の高い作品になったか</li> </ul>
	7	立体作品の制作 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>「立体」であることを意識し、完成のイメージを明確に持ってアイデアスケッチ、デッサン、二面図等をかき事のできたか</li> </ul>
	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデアスケッチ、デッサン、二面図等もとに独創的で完成度の高い作品をつくれたか</li> <li>丁寧な仕事ができたか</li> </ul>
	9		
	10		
	11	絵画作品の制作 (20時間) (総計70時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な仕事ができたか</li> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>よく観察し、諦めずに最後まで描き込めたか</li> </ul>
	12		
1~2			
成績評価の方法	授業への取り組み、提出物、出席状況、作品の完成度等の状況を判断して行う。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中は、作品制作に集中すること。</li> <li>忘れ物をしない、準備片付けをする等あたりまえのことを疎かにしないこと。</li> <li>作品の意図を理解し、提出期限を守ること。</li> </ul>		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
芸術	音楽Ⅱ	2学年	2単位
目標 (到達目標)	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
使用教科書	「高校生の音楽2」 教育芸術社		
使用副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽通論 教育芸術社</li> <li>・「MUSIC NOTE」 株式会社啓隆社</li> </ul>		
目標に向けての 学習活動	基礎的技能と創造的な表現力を伸ばし、主体的に音楽を楽しむ姿勢をもちながら、様々な形態(全体、グループ等)の活動に取り組む。		
授業方法・形態	講座別		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	歌唱(4時間)	積極的に声を出し、表現を工夫して歌うことができたか。
	5	ギター(8時間)	ギターの応用的な奏法を習得し、曲の構成や曲想の把握をして表現することができたか。
	6	コード学習(8時間) (小計20時間)	基本的なコードの構造やコードネームについて理解することができたか。
	7	オルガン合奏(6時間)	コード学習で理解したことを表現活動に生かすことができたか。
	8	鑑賞、歌唱、器楽(沖縄の音楽) (10時間)	音楽の歴史的背景、文化的背景を知り、楽曲の構成に注意して聴くことができたか。また、鑑賞で得た印象を生かし、表現活動ができたか。
	9		
	10	鑑賞、合唱(8時間)	
	11	箏の基礎(6時間) (小計30時間)	箏の基本的な奏法や楽譜の読み方を身につけることができたか。
	12		
	1	アンサンブル発表会の準備と実施 (14時間) (小計20時間) (総計70時間)	楽器の奏法を習得し、グループで協力して表現を工夫できたか。
	2		
	3		
成績評価の方法	実技、プリント課題、出席状況、授業への取り組み状況を総合的に判断しておこなう。		
履修上の留意点	授業には「主体的に参加する」という姿勢で臨むこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数	
芸術	美術Ⅱ	2学年	2単位	
目標 (到達目標)	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化についての理解を深め、個性豊かな美術の能力を高める。			
使用教科書	高校美術2 (日本文教出版)			
使用副教材等				
目標に向けての 学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中は常に『完成度の高い作品(自分のイメージに近づける)にするにはどうしたらよいか』を考えながら行動する。</li> <li>日常生活の中でも、色や形(美しい, 面白い)に興味を持つとよい。</li> </ul>			
授業方法・形態	2年生選択者(講座別)			
実施予定	月	実施内容	評価の観点	
	4	色彩学 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な仕事ができたか</li> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>色の成立ちが理解できたか</li> </ul>	
	5	デザイン(文化祭ポスターの制作) (16時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>たくさんアイデアを出せたか</li> <li>丁寧な仕事をしたか</li> </ul>	
	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報(日時, テーマ等)がみる人に伝わる作品になったか</li> <li>独創的で完成度の高い作品になったか</li> </ul>	
	7	立体作品の制作(銅鍛金) (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>「立体」であることを意識し、完成のイメージを明確に持ってアイデアスケッチ、デッサン等を描く事ができたか</li> </ul>	
	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデアスケッチ、デッサン等もとに独創的で完成度の高い作品をつくれたか</li> <li>丁寧な仕事ができたか</li> </ul>	
	9			
	10			
	11	12	絵画(人物画)  (20時間)  (総計70時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な仕事ができたか</li> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>テーマに合った作品ができたか</li> <li>余白のバランスを考え構図が決められたか</li> </ul>
	1			
	2			
	成績評価の方法	授業への取り組み、提出物、出席状況、作品の完成度等の状況を判断して行う。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中は、作品制作に集中すること。</li> <li>忘れ物をしない、準備片づけをする等あたりまえのことを疎かにしないこと。</li> <li>作品の意図を理解し、提出期限を守ること。</li> </ul>			



教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
芸術	音楽Ⅲ	3学年(選択)	2単位
目標 (到達目標)	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。		
使用教科書	「音楽Ⅲ」 教育出版社		
使用副教材等	・音楽通論 教育芸術社(1, 2年次のものを継続して使用) ・「MUSIC NOTE」 株式会社啓隆社(1, 2年次のものを継続して使用)		
目標に向けての 学習活動	基礎的技能と創造的な表現力を伸ばし、主体的に音楽を楽しむ姿勢をもちながら、様々な形態(全体、グループ等)の活動に取り組む。		
授業方法・形態	3年音楽選択者		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	歌唱(斉唱、重唱、合唱) (12時間)	歌詞及び曲想を生かした表現を工夫できたか。また、歌唱の形態(斉唱、重唱、合唱)に応じた発声を工夫することができたか。
	5		
	6	ギターアンサンブル(8時間) (小計20時間)	ギターの奏法を習得し、曲の構成や曲想の把握をして仲間と合奏ができたか。
	7	ギターアンサンブル(6時間)	
	8	創作(10時間)	歌の主旋律や歌詞を生かした、新たなパートを創作(編曲)することができたか。
	9		
	10	鑑賞、歌唱(14時間) (小計30時間)	編曲によって曲のもつ雰囲気が変わることを理解し、編曲に合った歌唱表現を工夫できたか。
	11		
	12	アンサンブル発表会の準備と実施 (20時間) (小計20時間) (小計70時間)	楽器の奏法を習得し、グループで協力して表現を工夫できたか。
	1		
	2		
3			
成績評価の方法	実技、プリント課題、出席状況、授業への取り組み状況を総合的に判断しておこなう。		
履修上の留意点	・1, 2年次で音楽を選択していること。 ・授業には「主体的に参加する」という姿勢で臨むこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
芸術	美術Ⅲ	3 学年	2 単位
目 標 (到達目標)	美術の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てると共に、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。		
使用教科書	美術 3 (日本文教出版)		
使用副教材等			
目標に向けての 学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中は常に『完成度の高い作品(自分のイメージに近づける)にするにはどうしたらよいか』を考えながら行動する。</li> <li>・ 日常生活の中でも、色や形(美しい, 面白い)に興味を持つとよい。</li> </ul>		
授業方法・形態	3 年生選択者		
実 施 予 定	月	実施内容	評価の観点
	4	モダンテクニック (4 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 丁寧な仕事ができただか</li> <li>・ 準備片づけがしっかりできたか</li> <li>・ テクニックを理解できたか</li> </ul>
	5 ～ 6	デザイン(文化祭マークの制作) (16 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たくさんアイデアを出せたか</li> <li>・ 準備片づけがしっかりできたか</li> <li>・ 丁寧な仕事をしたか</li> <li>・ 必要な情報(日時, テーマ等)がみる人に伝わる作品になったか</li> <li>・ 独創的で完成度の高い作品になったか</li> </ul>
	7～	卒業制作 2 作品を制作、提出 (50 時間) (総計70時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 丁寧な仕事ができただか</li> <li>・ 準備片づけがしっかりできたか</li> <li>・ 完成度の高い作品になったか</li> </ul>
成績評価の方法	授業への取り組み、提出物、出席状況、作品の完成度等の状況を判断して行う。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中は、作品制作に集中すること。</li> <li>・ 作品制作に必要な物は、できるだけ各自で用意すること。</li> <li>・ 忘れ物をしない、準備片付けをする等あたりまえのことを疎かにしないこと。</li> <li>・ 作品の意図を理解し、提出期限を守ること。</li> </ul>		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
外国語	英語会話	1年	2単位
目標 (到達目標)	リスニングを中心にオーラルの能力の基礎を育成しながら、日常生活に必要な様々な表現を覚え、積極的にコミュニケーションを取る基礎的な能力を養う。		
使用教科書	Sailing English Conversation (啓林館)		
使用副教材等			
目標に向けての 学習活動	リスニングや発話等の言語活動を中心に行う。 日常生活の場面に応じた基本的な表現を理解し覚える。		
授業方法・形態	習熟度別4講座編成で実施する。		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	4時間 教: Lesson 1	1 関心・意欲・態度 ①予習・授業・復習のノート整理。 ②課題・宿題の提出。 ③積極的発言。 ④異文化に関する基本的知識を基にした自分の意見表現。 2 表現力 ①明確な声での発言。 ②英語での表現。 3 理解力 既習の音声及び英文の理解。 4 知識 ①英文理解に必要な基本的な語彙力及び文法力。 ②単語、熟語、英文の小テストでの合格。
	5	8時間(中間考査含む) 教: Lesson 2	
	6	8時間(期末考査含む) 教: Lesson 3 (小計20時間)	
	7	4時間 教: Lesson 4	
	8	2時間 教: Lesson 5	
	9	8時間 教: Lesson 5	
	10	8時間(中間考査含む) 教: Lesson 6	
	11	8時間(期末考査含む) 教: Lesson 7 (小計30時間)	
	12	7時間 教: Lesson 8	
	1	7時間 教: Lesson 9	
	2	6時間(学年末考査含む) 教: Lesson 10 (小計20時間) (計70時間)	
成績評価の方法	5回の定期考査、出席状況、授業への取り組みを総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	予習、復習を継続的に行い習慣化する。 必要な教材(Sailing, ファイル、辞書、スコラ手帳、筆記用具)は必ず携行する。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
外国語	コミュニケーション英語I	1年	3単位
目標 (到達目標)	語彙力、文法力、読解力、表現力の基礎を養いながら、様々な題材を通して世界の有り様を学び言葉を介して、世界の人々とコミュニケーションを取るための基礎的な能力と姿勢を養う。		
使用教科書	All Aboard! English Communication I (東京書籍)		
使用副教材等	* フォローアップ Follow Up 英文法基本ドリル (CHART INSTITUTE) * 英単語集コーパス1800 (東京書籍)		
目標に向けての 学習活動	基礎的な語彙力、文法力、読解力、表現力を身につけるため、授業の聴講、理解、板書、言語活動、課題を通して、総合的な学習を行う。		
授業方法・形態	習熟度別4講座編成で実施する。		
実施予定	月	実施内容(教:教科書、文:文法問題集、単:単語集)	評価の観点
	4	8時間(実力テスト含む) 教: Lesson 1 単: Lesson1 文: Lessons 1-2	1 関心・意欲・態度 ①予習・授業・復習のノート整理。 ②課題・宿題の提出。 ③積極的発言。 ④異文化に関する基本的知識を基にした自分の意見表現。 2 表現力 ①明確な声での発言。 ②英語での表現。 3 理解力 既習の音声及び英文の理解。 4 知識 ①英文理解に必要な基本的な語彙力及び文法力。 ②単語、熟語、英文の小テストでの合格。
	5	11時間(中間考査含む) 教: Lesson 2 単: Lesson2 文: Lessons 3-4	
	6	11時間(期末考査含む) 教: Lesson 3 単: Lesson3 文: Lessons 5-6 (小計30時間)	
	7	10時間 教: Lesson 4 単: Lesson4,5 文: Lessons 7-8 (別途夏期休業課題)	
	8	3時間(実力テスト含む) 教: Lesson 5 単: Lesson6 文: Lesson 9	
	9	10時間 教: Lesson 5 単: Lesson7 文: Lessons 9-10	
	10	11時間(中間考査含む) 教: Lesson 6 単: Lesson8 文: Lessons 11-12	
	11	11時間(期末考査含む) 教: Lesson 7 単: Lesson9,10 文: Lessons 13-14 (小計45時間)	
	12	10時間 教: Lesson 8 単: Lesson11,12 文: Lessons 15-16 (別途冬期休業課題)	
	1	10時間(実力テスト含む) 教: Lesson 9 単: Lesson13,14 文: Lessons 17-18	
	2	10時間(学年末考査含む)(別途春期休業課題) 教: Lesson 10 単: Lesson15 文: Lessons 19-20 (小計30時間)	
成績評価の方法	5回の定期考査、3回の実力テスト、出席状況、授業への取り組みを総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	予習、復習を継続的に行い習慣化する。規定の提出物を提出する。 必要な教材の教科書、ノート、英語ファイル、辞書、 <b>スコラ手帳</b> の5点は必ず携行する。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
外国語	コミュニケーション英語II	2年	4単位
目標 (到達目標)	語彙力、文法力、読解力、表現力を定着させ、かつ幅を広げつつ、様々な題材を通して世界の有り様を学び言葉を介して、世界の人々とコミュニケーションを取るための基礎的かつ実践的な能力と姿勢を養う。		
使用教科書	All Aboard! English Communication II (東京書籍)		
使用副教材等	* Follow Up 英文法基本ドリルCHART INSTITUTE * コーパス1800 New Edition 東京書籍 * Listening Laboratory Basic α 数研出版		
目標に向けての 学習活動	より実践的な語彙力、文法力、読解力、表現力を身につけるため、授業の聴講、理解、板書、言語活動、課題を通して、総合的な学習を行う。		
授業方法・形態	文理コース習熟度別3講座および情報経営コース1講座編成で実施する。		
実施予定	月	実施内容(教:教科書、文:文法問題集、単:単語集、副:Listening Laboratory)	評価の観点
	4	教: Lesson 1~3 (18時間) 単: Pre STAGE~STAGE1 (6時間) 文: 第8~12章 (14時間)	1 関心・意欲・態度 ①予習・授業・復習のノート整理。 ②課題・宿題の提出。 ③積極的発言。 ④異文化に関する基本的知識を基にした自分の意見表現。 2 表現力 ①明確な声での発言。 ②英語での表現。 3 理解力 既習の音声及び英文の理解。 4 知識 ①英文理解に必要な基本的な語彙力及び文法力。 ②単語、熟語、英文の小テストでの合格。
	5	副: Unit 3 (2時間)	
	6	(小計40時間) 実力テスト、中間考査、期末考査含む	
	7	教: Lesson 4~7 (30時間) 単: STAGE2~STAGE4 (8時間) 文: 第13~16章 (20時間)	
	8	副: Unit 4 (2時間)	
	9	別途夏期休業課題有	
	10	(小計60時間) 実力テスト、中間考査、期末考査含む	
	11		
	12	教: Lesson 8~10, Reading2 (20時間) 単: STAGE5 (4時間) 文: 第17~20章 (14時間)	
	1	副: Unit 5 (2時間)	
	2	別途冬期、春期休業課題有 (小計40時間) 実力テスト、学年末考査含む	
成績評価の方法	5回の定期考査、3回の実力テスト、出席状況、提出物、授業への取り組みを総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	予習、復習を継続的に行い習慣化する。規定の提出物を提出する。 必要な教材(教科書、ノート、辞書、フォローアップ、リスニングラボラトリー、コーパス、スコラ手帳)は必ず携行する。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
外国語	英語表現I	2年	2単位
目標 (到達目標)	文法項目別に構成されている教科書を利用し、語彙力や文法力を定着させることで、表現力を養う。また、それぞれの課に設けられているテーマについて論理的に考えをまとめ、培った表現力で、相手に伝える力を育成する。		
使用教科書	Vivid English Expression I (第一学習社)		
使用副教材等			
目標に向けての 学習活動	語彙力や文法力に基づいた表現力と論理的思考を育成させるため、授業の聴講、理解、板書、言語活動、意見発表、課題を通して、総合的な学習を行う。		
授業方法・形態	文理コース習熟度別3講座で実施する。		
実施予定	月	実施内容(教:教科書)	評価の観点
	4	4時間(実力テスト含む) 教: Lesson 1	1 関心・意欲・態度 ①予習・授業・復習のノート整理。 ②課題・宿題の提出。 ③積極的発言。 ④テーマに関する論理的な自分の意見表現。 2 表現力 ①明確な声での発言。 ②適切な英語での表現。 3 理解力 既習の音声及び英文の理解。 4 知識 ①英語表現に必要な基本的な語彙力及び文法力。 ②単語、熟語、英文の小テストでの合格。
	5	8時間(中間考査含む) 教: Lessons 2-4	
	6	8時間(期末考査含む) 教: Lessons 4-6 (小計20時間)	
	7	4時間 教: Lessons 7-8 (別途夏期休業課題)	
	8	2時間(実力テスト含む) 教: Lesson 9	
	9	8時間 教: Lessons 10-12	
	10	8時間(中間考査含む) 教: Lessons 12-14	
	11	8時間(期末考査含む) 教: Lessons 14-16 (小計30時間)	
	12	7時間 教: Lessons 17-18 (別途冬期休業課題)	
	1	7時間(実力テスト含む) 教: Lessons 19-20	
	2	6時間(学年末考査含む) 教: Lessons 21-22 (別途春期休業課題) (小計20時間) (計70時間)	
成績評価の方法	5回の定期考査、出席状況、授業への取り組みを総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	予習、復習を継続的に行い習慣化する。 必要な教材(Vivid、ファイル、辞書、筆記用具)は必ず携行する。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数			
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	3年	5単位			
目標 (到達目標)	語彙力、文法力、読解力、表現力をさらに伸ばすとともに、多様な題材を通して幅広い生き方や価値観、世界観を学び、世界の人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を養う。					
使用教科書	All Aboard! English Communication III (東京書籍)					
使用副教材等	*アトラス総合英語(学習用文法参考書)(桐原書店) *アトラスEnglish Grammar Compass in 23 Lessons(文法問題集)(桐原書店) *アトラスEnglish Grammar Compass Workbook(文法問題集)(桐原書店) *英単語集VALUE 1400(数研出版) *Listening Laboratory Basic α(数研出版)					
目標に向けての 学習活動	より実践的な語彙力、文法力、読解力、表現力を身につけるため、授業の聴講、理解、板書、言語活動、課題を通して、総合的な学習を行う。					
授業方法・形態	習熟度別3講座編成で実施する。					
実施予定	月	実施内容			評価の観点	
		教科書	アトラス23 Lessons・ Workbook	Liste ning Labor atory	Value	1 関心・意欲・態度 ①予習・授業・復習の ノート整理。 ②課題・宿題の提出。 ③積極的発言。 ④異文化に関する基 本的知識を基にし た自分の意見表現。 2 表現力 ①明確な声での発言。 ②英語での表現。 3 理解力 既習の音声及び英文 の理解。 4 知識 ①英文理解に必要な 基本的な語彙力及 び文法力。 ②単語、熟語、英文の 小テストでの合格。
	4	【第1回実力】 Lesson 1-2	23 Lessons 20-23	Unit 11-12	STEP 1	
	5	【1学期中間】 (30時間)				
	6	Lesson 3-4 【1学期期末】 (20時間) (小計50時間)	Workbook 1-5	Unit 13-14	STEP 2	
	7	Lesson 5 【第2回実力】	Workbook 6-13	Unit 15-16	STEP 3	
	8	Lesson 6-7 【2学期中間】 (40時間)				
	9					
	10	Lesson 8-9 【2学期期末】 (35時間)	Workbook 14-19	Unit 17-18	STEP 4	
	11	(小計75時間)				
	12	Lesson10 Reading1-2 【卒業試験】 (50時間) (小計50時間) (計175時間)	Workbook 20-23	Unit 19-20	STEP 5	
	1					
	2					
3						
成績評価の方法	2回の実力テスト、5回の定期考査、提出物、出席状況、授業への取り組みを総合的に評価する。					
履修上の留意点	予習・復習を継続的に行い習慣化する。規定の提出物を提出する。 必要な教材は必ず携行する。					

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数	
家庭	家庭総合	1年	2単位	
目標 (到達目標)	人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。			
使用教科書	『新家庭総合 パートナリシップでつくる未来』 (実教出版)			
使用副教材等	『生活ハンドブック』 (第一学習社)			
目標に向けての 学習活動	授業に真剣に取り組む。学習プリントは毎回きちんと記入し、授業がよく理解できるように努力する。実習・実験には積極的に取り組み、家庭や地域生活で実践できるようにする。			
授業方法・形態	1年生全員・教室での座学と被服教室での実習			
実施予定	月	実施内容	評価の観点	
	4 5	家庭総合を学ぶ 自分らしい生き方と家族 自分を見つめる(1時間) 自立した生き方、共に生きる人生 共に生きる家族(3時間) 家族に関する法律(3時間) 私たちの生活を支える労働と生活時間(3時間) (小計10時間)	・家庭総合を学ぶ意味を考えられたか。 ・自分の生き方や家族について考えられたか ・現在の家族、家庭の抱える課題を理解できたか	
	6	高齢者と関わる 高齢社会に生きる私たちの暮らし(3時間) 高齢者を知る(1時間) 実習:高齢者疑似体験実習(1時間) 高齢者の自立のために私たちができること(3時間) 豊かな高齢期を迎えるしくみ(2時間) (小計10時間)	・超高齢社会を生きていく中で必要な知識が学べ、考ええることができたか ・高齢者の心身の特徴や生活について理解できたか [1学期末試験]	
	7	社会とかかわる 支え合う暮らしとは(2時間) 私たちの社会福祉(2時間) 地域社会の一員としてのボランティア活動(2時間) (小計6時間)	・私たちの暮らしが社会保障制度や福祉に支えられていることができたか	
	8	衣生活をつくる	・快適な衣生活を営むための知識や方法を学ぶことができたか。	
	9	衣服の機能(2時間) 衣服の素材を見てみよう(4時間)	・衣服素材の種類、繊維の種類と特徴について理解できたか	
	10	衣生活の管理(3時間) 実験:洗剤のはたらき(1時間)	・基本的な被服製作の技術を学ぶことができたか。	
	11	実習:カラーコーディネート(2時間) 実習:被服製作(12時間)(小計24時間) 衣生活と資源・環境(2時間)	[2学期末試験]	
	12	すべての人が快適な衣生活を(2時間) 住生活をつくる 人と住まいのかかわり(2時間) 住まいを計画する(4時間) 健康的な住まい環境(2時間)	・快適な住まいについて考えることができたか。	
	1	消費行動を考える 消費行動と意思決定(4時間)	・消費者としての行動や責任について知り、経済的自立について理解できたか	
	2	社会の変化と消費生活(4時間) (小計20時間)	[学年末試験]	
	成績評価の方法	定期試験・提出物・出欠席・実験実習の取り組み状況を総合的に判断して行う。		
	履修上の留意点	学習プリントは全員必ず提出すること。実習、実験には積極的にとりくむこと。		



教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
家庭	家庭総合	2年	2単位
目標 (到達目標)	人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。		
使用教科書	『新家庭総合 パートナーシップでつくる未来』 実教出版		
使用副教材等	『生活ハンドブック』 第一学習社		
目標に向けて の 学習活動	授業に真剣に取り組む。学習プリントは毎回きちんと記入し、授業がよく理解できるよう努力する。 実習・実験には積極的に取り組み、家庭や地域生活で実践できる力をつける。		
授業方法・形態	2年生全員・教室での座学と実習		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4～10	食生活をつくる 人と食べ物とのかかわり(1時間) 私たちの食生活(5時間) 栄養と食品のかかわり(15時間) ・炭水化物とその食品 ・脂質とその食品 ・たんぱく質とその食品 ・ミネラルとその食品 ・ビタミンとその食品  食品の選び方と安全(2時間) 食事の計画と調理(15時間)  これからの食生活を考える(2時間) (小計40時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の食生活の問題点について理解できたか。</li> <li>栄養素の種類と働きについて理解できたか。</li> </ul> [1学期期末考査] <ul style="list-style-type: none"> <li>各実習を通して、調理の基本や調理操作、使用食品の特徴や扱い方について理解できたか。</li> </ul>
	11～1	子どもとかかわる 青年期の健康と生命の芽ばえ(4時間) こどもを知る(2時間) 発達のすばらしさ(4時間) こどもの生活(6時間) 実習:絵本の読み聞かせ(2時間) 実習:こどものおもちゃ(2時間) 親になることを考えよう(3時間) すこやかに育つ環境(3時間) (小計26時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>食の安全や環境に感心を深められたか。</li> <li>青年期の健康管理について理解できたか。</li> </ul> [2学期期末試験] <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達・保育・福祉の学習を通じて、健全な発達を支える親や社会の役割を理解すると共に、保育への関心を深めることができたか。</li> </ul>
	2	経済的に自立する 経済のしくみを知る(2時間) ライフステージと経済計画(2時間) (小計4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭経済のしくみやライフステージと経済計画の重要性を知り将来自立する準備ができたか。</li> </ul> [学年末考査]
成績評価の方法	定期考査・提出物・出欠席・実験実習の取り組み状況を総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	学習プリントは全員必ず提出すること。実験、実習には積極的に取り組むこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
家庭	フードデザイン	3年	2単位
目標 (到達目標)	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネイトなどに関する知識と技術を習得させ、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。		
使用教科書	『フードデザイン 新訂版』(実教出版)		
使用副教材等	『新版ビジュアルクッキング』(教育図書)		
目標に向けての 学習活動	日本料理・西洋料理・中国料理の実習を通し、それぞれの食文化を理解しまた様々な料理方法を理解できるようにする。 現代の食生活の問題点や栄養素の働きなどから食生活の重要性を知り、充実と向上をはかる。		
授業方法・形態	3年生選択者		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4～11	<p>食生活と健康</p> <p>食生活の変化と現状(3時間)</p> <p>よりよい食生活を創造するために(1時間)</p> <p>栄養素のはたらきと食品の特徴 なぜ食物が必要なのか(2時間)</p> <p>健康に必要な栄養素(4時間)</p> <p>食品の成分と変化(1時間)</p> <p>食品の加工(3時間)</p> <p>献立と調理</p> <p>調理の基本(4時間)</p> <p>献立作成(4時間)</p> <p>〔調理実習・実験〕(28時間)</p> <p>(小計50時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の食生活の問題点を知り今後の課題や解決方法について理解できたか。</li> <li>栄養素の働きを知り、食生活の充実・向上を図るための知識が得られたか。</li> <li>食品加工の方法と特徴が理解できたか。(1学期末試験)</li> <li>各実習を通して調理の基本、調理操作や使用食品の特徴や扱い方について理解できたか。</li> <li>献立をいかす配膳ができたか。(2学期末試験)</li> </ul>
	12～2	<p>料理様式と調理・食卓作法(4時間)</p> <p>テーブルコーディネイト(2時間)</p> <p>コーディネイト小物の製作(4時間)</p> <p>〔調理実習・実験〕(10時間)</p> <p>(小計20時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>和・洋・中のテーブルマナーが理解できたか。</li> <li>テーブルコーディネイトについて知り応用できるか。</li> <li>様式別献立の計画を立て調理ができたか。(学年末試験)</li> </ul>
成績評価の方法	実習・実験への取り組み、学期末試験結果、実習記録等の提出物を総合的に判断して評価する。		
履修上の留意点	実習、実験においては身支度を整え、火の元・衛生面など、安全に気をつけて意欲的に取り組む。実習の記録プリントなど提出物は必ず全員提出すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
商業	簿記	2年情報経営コース	3単位
目標 (到達目標)	企業における取引を合理的、能率的に記帳する知識と技術を習得し、簿記の基本的な仕組みを理解する。		
使用教科書	新簿記 実教出版		
使用副教材等	完全段階式簿記検定問題集		
目標に向けての 学習活動	問題集に取り組むことにより取引の記帳法等を確認していく。		
授業方法・形態	2年情報経営コース		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	簿記の基礎 簿記の基礎 (3時間)	・簿記に関する基本的な知識が身に付いたか。一連の帳簿記入の体系が理解できたか。
	5	貸借対照表・損益計算書 (8時間) 取引と勘定 (3時間)	
	6	仕訳・転記と帳簿記入 (6時間) 試算表・精算表・決算 (8時間) まとめ (2時間) (小計30時間)	
	7 ～ 11	取引の記帳 現金・預金・商品売買 (12時間) 掛け・手形・有価証券 (12時間) その他の債権・債務 (6時間) 固定資産・資本と税金 (4時間) 営業費 (11時間) (小計45時間)	・企業の経営活動によって発生するさまざまな取引について、基本的な記帳方法について理解できたか。 また、各種取引の仕訳と転記、勘定科目の明細を示す帳簿についての記帳方法を理解できたか。
	12 1 2	決算 決算整理・8桁精算表 (12時間) 帳簿決算と財務諸表 (4時間) まとめ (7時間) (小計23時間)	・決算整理の意味と必要性を理解し、記帳法が理解できたか。
	3	帳簿と伝票 帳簿・伝票 (4時間) まとめ・総まとめ (3時間) (小計7時間)	・帳簿の種類とその役割について理解できたか。 また、3伝票制の起票とその利用法について理解できたか。
成績評価の方法	・3回の定期考査、提出物、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断し行う。		
履修上の留意点	・授業に電卓・定規・赤色ボールペン・問題集を必ず持参すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
商業	情報処理	2年情報経営コース	2単位
目標 (到達目標)	商業文書について、基礎的な技術を習得し、ビジネスの諸活動に活用できるようにする。		
使用教科書	最新情報処理新訂版 実教出版		
使用副教材等	日本語ワープロ検定試験模擬問題集		
目標に向けての 学習活動	パソコンの操作方法からソフトの利用方法を学習する。		
授業方法・形態	2年情報経営コース		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	【ビジネス文書】 ビジネス活動と文書情報 ビジネスと情報 (1時間) ビジネス文書の種類 (1時間)	・文書情報の役割を理解できたか。 ・文書作成ソフトの利用に関する知識と技術が習得できたか。
	5	機器とワープロソフト (2時間) ワープロの基本操作 (16時間) (小計20時間)	
	6		
	7	基本文書の作成 文書の構成 (4時間)	・文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解できたか。 ・文書作成における基本的な編集機能の操作方法を身に付ける事ができたか。 ・企業間で行なわれる社交の内容や役割を理解し、文書を作成する方法を身に付ける事ができたか。 ・社外文書と社内文書の違いを理解し、文書を作成する方法を身に付ける事ができたか。 ・ビジネス文書の作成に必要な知識と技術が習得できたか。
	8	ワープロでの文書作成 (12時間)	
	9		
	10	社外文書 (18時間)	
	11		
	12	社内文書 (6時間)	
	1	まとめ (10時間)	
	2	(小計50時間)	
	3		
成績評価の方法	・技術の習得状況、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断し行う		
履修上の留意点	・技術の習得にあたり授業への出席が重要になります。 ・検定受検があります。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
商業	ビジネス情報	2年情報経営コース	3単位
目標 (到達目標)	情報を処理するための知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に活用できるようにする。		
使用教科書	ビジネス情報新訂版 東京法令出版		
使用副教材等	情報処理技能検定試験模擬問題集		
目標に向けての 学習活動	パソコンの操作方法からソフトの利用方法を学習する。		
授業方法・形態	2年情報経営コース		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4 5 6 ～ 3	オフィス業務と情報通信ネットワーク 業務の情報化 (5時間) 情報通信ネットワーク (5時間) データの保護 (8時間) (小計18時間) <hr/> 表計算ソフトの活用演習 ビジネス計算 (4時間) 表計算ソフト基本操作 (20時間) 関数の利用 (20時間) グラフの利用 (20時間) グラフの作成 (16時間) 表計算ソフトの応用 (7時間) (小計87時間)	・ビジネス活動における情報活用の重要性を理解できたか。 ・情報の意義・役割を理解できたか。 ・コンピュータの基本的な機能・構成を理解できたか。 ・簡単な集計表が作成できるか。 ・基本的な関数を理解し、利用できたか。 ・グラフの作成方法を習得できたか。
成績評価の方法	・技術の習得状況、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断し行う		
履修上の留意点	・技術の習得にあたり授業への出席が重要になります。 ・検定受検があります。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
商業	簿記	3年情報経営コース	2単位
目標 (到達目標)	2学年で学んだ内容を適宜復習し定着をはかるとともに、特殊な取引や株式会社会計についての記帳方法を理解する。		
使用教科書	新簿記新訂版 実教出版		
使用副教材等	最新段階式簿記問題集		
目標に向けての 学習活動	問題集に取り組むことにより取引の記帳法等を確認していく。		
授業方法・形態	3年情報経営コース		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4～	2年次の復習と発展 (20時間)	・2年次の学習が理解できているか。
	7	決算 決算整理 (5時間)	・帳簿決算の手続きと財務諸表の作成方法を理解できたか。
	8	財務諸表の作成 (4時間) まとめ (1時間) (小計30時間)	
	9	取引の記帳 特殊な商品売買の記帳 (5時間) 特殊な手形取引の記帳 (3時間) まとめ (2時間) (小計10時間)	
	10	仕訳帳の分割 仕訳帳の分割 (7時間) 5伝票制による記帳 (2時間) まとめ (1時間) (小計10時間)	・特殊仕訳帳を利用した記帳法を習得できたか。 ・5伝票制を利用した記帳法を習得できたか。
11 ～ 3	本支店の会計 本支店の取引 (5時間) 財務諸表の合併 (4時間) まとめ (2時間) 総まとめと発展 (9時間) (小計20時間)	・支店会計が独立している場合の記帳法を習得できたか。 ・本支店の財務諸表の合併手続きを習得できたか	
成績評価の方法	・3回の定期考査、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断し行う。		
履修上の留意点	・授業に電卓・定規・赤色の筆記用具を必ず持参すること。 ・検定受検があります。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
商業	情報処理	3年情報経営コース	2単位
目標 (到達目標)	商業文書について、基礎的な技術を習得し、ビジネスの諸活動に活用できるようにする。		
使用教科書	最新情報処理新訂版 実教出版		
使用副教材等	日本語ワープロ検定試験模擬問題集		
目標に向けての 学習活動	パソコンの操作方法からソフトの利用方法を学習する。		
授業方法・形態	3年情報経営コース		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4 5 6 ～ 3	<b>【商業文書】</b> 応用文書の作成 表計算を含んだ文書作成 (6時間) グラフを含んだ文書作成 (4時間) 表現力に富んだ文書作成 (4時間) その他の機能 (6時間) (小計20時間)	・文書作成ソフトの多様な機能を利用して、応用的な文書の作成に関する知識と技術を習得できたか。
		ビジネス文書の受発信 文書作成の応用 (20時間) 文書の受発信 (10時間) 情報機器や情報通信ネットワークを利用した文書の受発信 (10時間) まとめ (10時間) (小計50時間)	・文書の受発信に関する基礎的な知識について理解できたか。 ・情報ネットワークを利用した文書の受発信に関する技術を習得できたか。
成績評価の方法	・技術の習得状況、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断し行う		
履修上の留意点	・技術の習得のほか、授業への出席が重要になります。 ・検定受検があります。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
商業	ビジネス情報	3年情報経営コース	2単位
目標 (到達目標)	情報を処理するための知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に活用できるようにする。		
使用教科書	ビジネス情報新訂版 東京法令出版		
使用副教材等	情報処理技能検定試験模擬問題集		
目標に向けての 学習活動	パソコンの操作方法からソフトの利用方法を学習する。		
授業方法・形態	3年情報経営コース		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4 ～ 10	表計算ソフト活用の基礎 表計算ソフトの応用 (10時間)  データの検索 (10時間)  報告書の作成 (20時間) (小計40時間)	・簡単な集計以外の関数を用いて処理することができたか。 ・データベースの簡単な仕組みが理解できたか。 ・表計算ソフトとワープロソフトを組み合わせた、効果的な報告書の作成方法を習得できたか。
	11 ～ 3	ビジネス情報と情報通信ネットワーク 情報通信ネットワーク (5時間) ビジネスと情報通信ネットワーク (3時間) 情報の収集とレポートの作成 (2時間) (小計10時間)	・ネットワークを利用して得た情報を元に二次利用に発展できたか。 ・ビジネスの情報化に対応するための手法を習得できたか。
		データベースソフト利用の基礎 ビジネス情報とデータベース (4時間) データベースソフトの利用 (4時間)  ビジネスの計算と表計算ソフト ビジネスの計算と表計算ソフト (4時間)  金融に関する計算 (4時間) 証券に関する計算 (4時間) (小計20時間)	・データベースソフトを利用して報告書を作成するための基礎的技法を習得できたか。 ・表計算ソフトを利用し基本的なビジネス計算・シュミレーションの方法が理解できたか。
成績評価の方法	・技術の習得状況、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断し行う		
履修上の留意点	・技術の習得にあたり授業への出席が重要になります。 ・検定受検があります。		



教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
情報	社会と情報	3 学 年	2 単 位
目 標 (到達目標)	コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を修得させるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。		
使用教科書	「改訂版 高等学校 社会と情報」数研出版		
使用副教材等	「改訂版 社会と情報 サポートノート」数研出版 「Excel2013」実教出版		
目標に向けての 学習活動	授業は実習中心となるので、授業の中で理解しようとする事。 家庭学習として宿題・週末課題等にしっかり取り組み、知識や技能が定着するように努めること。		
授業方法・形態	コンピュータ教室において ティームティーチング(通年)による授業と演習を行う(ABC講座必修)		
実 施 予 定	月	実施内容	評価の観点
	4	序章 情報とメディア	「情報」を学習する意義を理解できたか。
	5	第1編 情報社会と情報モラル (6時間)	現代社会が抱える情報の問題を認識し、その問題に対する対処法を理解できたか。
	6	◎ ワードソフト Word ・入力練習 ・教科書の実習問題 ・検定問題 (14時間)	コンピュータの操作方法、入力の基礎、入力スピード、表や図形・画像を挿入した文書の作成ができるか。
	7	◎ 表計算ソフト Excel ・表の作成	Excelを用いて表・グラフの作成ができるか。if、v-lookupなどの関数を利用できるか。
	8	・関数の利用	
	9	・グラフの作成 ・検定問題 (24時間)	
	10	第2編 デジタル情報と情報の活用 (6時間)	デジタル情報のしくみを理解するとともに、コンピュータのしくみを理解できたか。
	11		
	12 1 2 3	◎ Power Point ・スライドの作成 ・オブジェクトの挿入 ・検定問題 第3編 情報通信ネットワーク 第4編 望ましい情報社会の構築 (小計20時間)	PowerPointを用いてプレゼンテーションができるか。  通信技術について学び、一年間のまとめとして情報化社会の一員としてふさわしい知識を身に着けることができたか。
	成績評価の方法	定期考査の成績, レポートや作品の内容, 学習活動への参加の仕方や態度, 出席状況等を総合的に判断して行う。	
履修上の留意点	定期の宿題として、書き込み式問題集「社会と情報 サポートノート」などのページを指定し提出させる。問題集などの紛失に注意し必ず提出すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
国語	古典探究Ⅰ	2学年(文理古典選択)	2単位
目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典としての古文と漢文を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。</li> <li>・日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係について考えるとともに、古典への興味・関心を喚起させるために、古典という言語文化を正しく継承し、それを現代に生かす態度を育てる。</li> <li>・文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむとともに、それらに表された人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることによって、国語を的確に理解し適切に表現する能力の涵養を図り、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。</li> </ul>		
使用教科書	新編古典B改訂版(大修館書店)		
使用副教材等	新編古典B改訂版学習課題ノート(大修館書店) 全訳基本古語辞典(三省堂) 改訂増補最新国語便覧(浜島書店)		
目標に向けての 学習活動	毎回の授業に集中して臨み、自分だけの授業ノートを作る。家庭学習は、予習として教科書本文をノートに書き取っておく。語句の意味調べもしておくが良い。		
授業方法・形態	2年生選択者		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	『今昔物語集』(6時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説話を読み、その構成や展開に即してあら筋をとらえる。説話に叙述された世界を読み味わう。</li> <li>・積極的な古語辞典・文法書の利用を図る。</li> <li>・『徒然草』を読み、作者の人生観や自然観に触れ、ものの見方、感じ方を豊かにする。</li> <li>・人間や自然についての古人の優れた感性を知る。</li> <li>・話の展開に即して、内容を正確に読み取る。</li> <li>・登場人物の考え方を理解し、話のおもしろさを味わう。</li> <li>・漢文の読み方を確認する。</li> <li>・話の展開や内容のおもしろさを味わう。</li> <li>・繰り返し音読し、簡潔で含蓄のある表現を味わう。</li> <li>・和歌を読み味わい、鑑賞する。</li> <li>・和歌に表れた作者のものの感じ方や、表現の工夫を理解する。</li> <li>・実際に百人一首を体験する。</li> <li>・『土佐日記』を読み、作者の心情を読み取る。</li> <li>・日記文学の特徴を理解する。</li> <li>・人間のとらえ方の違いを理解する。</li> </ul>
	5	「安倍晴明と百鬼夜行」	
	6	『徒然草』(14時間)	
		「丹波に出雲といふ所あり」他 (小計20時間)	
	7	『竹取物語』(8時間)	
	8	「かぐや姫の昇天」	
		『寓話』(6時間)	
	9	「漁父之利」他	
		『伊勢物語』(8時間)	
	10	「初冠・東下り」	
	11	『漢詩』(8時間)	
		「絶句」他 (小計30時間)	
12	『百人一首の恋の歌』		
1	(4時間)		
2	『土佐日記』(8時間)		
	『儒家の思想』(8時間)		
3	(小計20時間)		
評価の方法	5回の定期考査、提出物、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断し行う。		
履修上の留意点	授業に臨むにあたり、教科書、ノート、便覧、辞書を必ず持参すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
国語	古典探求Ⅱ	3学年(文系)	3単位
目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文と漢文を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。</li> <li>・日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係について考えるとともに、古典への興味・関心を喚起させるために、古典という言語文化を正しく継承し、それを現代に生かす態度を育てる。</li> <li>・文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむとともに、それらに表された人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることによって、国語を的確に理解し適切に表現する能力の涵養を図り、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。</li> </ul>		
使用教科書	新編古典B改訂版(大修館書店)		
使用副教材等	新編古典B改訂版学習課題ノート(大修館書店) 全訳基本古語辞典(三省堂) 改訂増補最新国語便覧(浜島書店)		
目標に向けての 学習活動	毎回の授業に集中して臨み、自分だけの授業ノートを作る。家庭学習は、予習として教科書本文をノートに書き取っておく。語句の意味調べもしておくが良い。		
授業方法・形態	3年生文系		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	『沙石集』『今昔物語集』『宇治拾遺物語』(10時間)	・説話を読み、その構成や展開に即してあら筋をとらえる。説話に叙述された世界を読み味わう。
	5	『子罕弗受玉』『不死之薬』『先従隗始』(10時間)	・漢文の読み方を確認し、話の展開や内容の面白さを味わう。登場人物の言動に注意して話の内容を読み取る。
	6	『枕草子』(10時間)  (小計30時間)	・随筆の独特の文体を味わう。宮廷の生活の様子や作者の状況を理解したうえで内容を正確に読解する。
	7	『紫式部日記』『蜻蛉日記』(10時間)	・平安女流日記を読み、形式について理解する。古文特有の敬語表現に注意しながら内容を、丁寧に読み取る。人物の言動と、そこに表れる心情を読み取る。
	8		
	9	『水魚の交わり』『劉備の死』『諸葛亮の死』(15時間)	・長文の漢文を読み、鑑賞する。登場人物の性格や行動に焦点をあてて読解する。歴史の中の人間の生き方やあり方について考察し、興味を深める。
	10		
	11	『源氏物語』(20時間)  (小計45時間)	・登場人物の性格や心情を読み取り、人間のあり方について考える。敬語表現に注意しながら内容をつかむ。和歌がどんな心情を表しているか考察する。
	12	『小国寡民』『混沌』『侵官之害』(15時間)	・漢文の読み方を確認し、話の展開や内容の面白さを味わう。登場人物の言動に注意して話の内容を読み取る。
	1		
	2	『大鏡』(15時間)	
	3		(小計30時間)
評価の方法	5回の定期考査、提出物、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断し行う。		
履修上の留意点	授業に臨むにあたり、教科書、ノート、便覧、辞書を必ず持参する。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
地理・歴史	欧米史	3学年(選択)	4単位
目標 (到達目標)	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる一員としての自覚と資質を養う。		
使用教科書	「新詳世界史B」 帝国書院(2年次に購入済み)		
使用副教材等	「明解世界史図説エスカリエ」 帝国書院(2年次に購入済み) 「新詳世界史Bノート整理と演習」 帝国書院(2年次に購入済み)		
目標に向けての 学習活動	課題学習を通じて理解を深め、探求心を養う。 与えられたテーマに関する課題に取り組む。		
授業方法・形態	日本史Bとの選択履修		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	実力テスト(8時間) オリエント世界と地中海世界の形成	実施内容について理解が深まったか。以下同じ。
	5	南アジア世界の形成 東南アジア世界の形成 中間考査(16時間)	
	6	東アジア世界のあけぼの 中央ユーラシア世界の形成と展開 期末考査(16時間)	
	7	東アジア世界の変動と再編 イスラーム世界の形成と拡大 (12時間)	
	8	イスラーム世界の形成と拡大 実力テスト(4時間)	
	9	ヨーロッパ世界の形成 ユーラシア大帝国の出現 (16時間)	
	10	アジア諸地域の栄華と成熟 中間考査(16時間)	
	11	大規模な分業体制の成立 期末考査(12時間)	
	12	西ヨーロッパの覇権争いと世界的な 分業体制の拡大(12時間)	
	1	西ヨーロッパの覇権争いと世界的な 分業体制の拡大(28時間)	
	2	卒業試験 追加指導	
	3	(総計140時間)	
	成績評価の方法	実力テスト、定期考査、各種提出物、出席状況、授業への取り組み等の状況を総合判断して行う。	
履修上の留意点	授業に臨むにあたり教科書・図説・ノート等を必ず持参すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
地理・歴史	日本近現代史	3学年(選択)	4単位
目標 (到達目標)	我が国の歴史の展開を総合的に考察させ、幕末から現代までの特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる一員としての資質を養う。		
使用教科書	「高校日本史B」 実教出版		
使用副教材等	「最新 日本史図表」 第一学習社 「高校日本史B演習ノート」 実教出版		
目標に向けての学習活動	課題学習を通して探究心を養う。 与えられたテーマに関する課題に取り組む。		
授業方法・形態			
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	大日本帝国の形成 (8時間)	実施内容について理解が深まったか。以下同じ。
	5	大日本帝国の形成 (16時間) 中間考査	
	6	大日本帝国の展開 (16時間)	
	7	大日本帝国の展開 (12時間) 期末考査	
	8	15年戦争と日本・アジア (4時間)	
	9	15年戦争と日本・アジア (16時間)	
	10	戦後改革と高度経済成長 (16時間) 中間考査	
	11	戦後改革と高度経済成長 (12時間) 期末考査	
	12	現代の世界と日本 (12時間)	
	1	現代の世界と日本 (28時間)	
	2	卒業試験 追加指導	
3	(総計140時間)		
成績評価の方法	・定期考査、各種提出物、出席状況、授業への取り組み等の状況を総合判断して行う。		
履修上の留意点	・授業に臨むにあたっては、教科書・資料集・演習ノートを必ず持参すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
公民	新聞講読	3学年(情報経営・選択)	2単位
目標 (到達目標)	新聞学習を通して、現代における社会問題や政治・経済・国際関係などについて理解を深める。また、それらに関する諸課題について考察し、討論などを通じて論理的思考力や自らの考えを主体的に発信していく能力を育てる。		
使用教科書	なし		
使用副教材等	適宜、新聞記事を活用する		
目標に向けての 学習活動	新聞記事を読んで内容を要約し、その記事に対する自身の意見や感想を文章化する。また、グループごとの討論などを通じて他者と意見交換を行う。		
授業方法・形態	情報経営コースは全員が受講する。文系・理系コースは選択者のみ受講する。		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	記事要約・意見文作成・討論 (4時間)	記事について理解を深めて自分の意見をまとめ、発信できたか。以下同じ。
	5	記事要約・意見文作成・討論 (8時間)	
	6	記事要約・意見文作成・討論 期末考査 (8時間)	
	7	記事要約・意見文作成・討論 (6時間)	
	8	記事要約・意見文作成・討論 (2時間)	
	9	記事要約・意見文作成・討論 (8時間)	
	10	記事要約・意見文作成・討論 (8時間)	
	11	記事要約・意見文作成・討論 (6時間) 期末考査	
	12	記事要約・意見文作成・討論 (6時間)	
	1 2 3	記事要約・意見文作成・討論 卒業試験 (14時間)  (総計70時間)	
	成績評価の方法	・定期考査、提出物、出席状況、授業への取り組み等の状況を判断して行う。	
履修上の留意点	・授業にあたっては、ファイルを必ず持参すること。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位
数学	数学探究 I	3学年(選択)	2単位
目標 (到達目標)	「数学 I」と「数学A」の復習および演習をすることによって、学力の伸長と定着を図る。		
使用教科書			
使用副教材等	「短期集中ゼミ 基礎からの数学 I + A」 実教出版		
目標に向けての 学習活動	授業ではしっかりとノートを取り、授業の中で理解しようとする。家庭学習として、予習・復習、宿題・週末課題等にしっかり取り組み、知識や技能が定着するように努めること。		
授業方法・形態			
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	数と式(5時間)	数と式の演習が進んだか。
	5	2次関数(15時間)  (小計20時間)	2次関数の演習が進んだか。
	6		
	7		
	7	三角比(15時間)	三角比の演習が進んだか。
	8	場合の数と確率(15時間)  (小計30時間)	場合の数と確率の演習が進んだか。
	9		
	10		
	11		
	12	図形の性質(10時間)	図形の性質の演習が進んだか。
	1	整数の性質(5時間)	整数の性質の演習が進んだか。
	2	1年間のまとめ(5時間)  (小計20時間)	代表的な演習問題が解けるようになったか。
成績評価の方法	定期考査の成績, 宿題や課題帳等の提出物の内容, 学習活動への参加の仕方や態度, 出席状況等を総合的に判断して行う。		
履修上の留意点	授業に臨むにあたっては, ノート・問題集を用意しておくこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位
数学	数学探究Ⅱ	3学年(選択)	2単位
目標 (到達目標)	「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」の復習および演習をすることによって、学力の伸長と定着を図る。		
使用教科書			
使用副教材等	「短期集中ゼミ 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」実教出版		
目標に向けての 学習活動	授業ではしっかりとノートを取り、授業の中で理解しようとする。家庭学習として、予習・復習、宿題・週末課題等にしっかり取り組み、知識や技能が定着するように努めること。		
授業方法・形態			
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	数と式・2次関数(7時間)	数と式・2次関数の演習が進んだか。
	5	三角比(7時間)	三角比の演習が進んだか。
	6	場合の数と確率(6時間) (小計20時間)	場合の数と確率の演習が進んだか。
	7	図形の性質・整数の性質(4時間)	図形の性質・整数の性質の演習が進んだか。
	8	いろいろな式・図形と方程式(2時間)	いろいろな式・図形と方程式の演習が進んだか。
	9	三角関数(8時間)	三角関数の演習が進んだか。
	10	指数関数・対数関数(8時間)	指数関数・対数関数の演習が進んだか。
	11	微分・積分(8時間) (小計30時間)	微分・積分の演習が進んだか。
	12	数列(7時間)	数列の演習が進んだか。
	1	ベクトル(7時間)	ベクトルの演習が進んだか。
	2	1年間のまとめ(6時間) (小計20時間)	代表的な演習問題が解けるようになったか。
	成績評価の方法	定期考査の成績、宿題や課題帳等の提出物の内容、学習活動への参加の仕方や態度、出席状況等を総合的に判断して行う。	
履修上の留意点	授業に臨むにあたっては、ノート・問題集を用意しておくこと。		



教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
理科	生活科学	3学年(選択者)	2単位
目標 (到達目標)	生活の中で必要な科学的知識について幅広く学習し、我々の生活圏や社会に関係する科学について様々な視点から理解を深める機会を設ける。		
使用教科書	教科書の代わりにプリント等の資料を使用。		
使用副教材等	なし		
目標に向けての 学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学授業と実験・実習(校舎外舎)を通じて、生活に役に立つ科学の知識の定着と科学の意義、認識を深める。</li> <li>・身の周りのものや自然を通し、科学的な目で観る視点を養う。</li> <li>・身近な事象から世界的・人類的課題についてまでを扱い、理解を深める。</li> </ul>		
授業方法・形態	講座別授業(3年選択科目選択者)		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	身のまわりの科学(4時間)	・すべての科学分野で用いる基本的な知識・概念と計算手法について理解できる。
	5	身のまわりの科学(8時間)	・身の周りで起こる自然現象について、物理と化学の視点から理解ができる。(物理・化学分野)
	6	身のまわりの科学(8時間)	
	7	佐久地域の自然(6時間)	・佐久地域の自然や環境について学習し、理解できる。(生物・地学分野)
	8	佐久地域の自然(2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力学的、電気、化学、熱、光、核といったエネルギーについて学習し、それらのエネルギーが社会においてどのように利用されているか理解できる。(物理分野)</li> <li>・身の周りに出回っている工業製品の仕組みについて理解できる。(物理・化学分野)</li> <li>・AIについて映像など交えてその可能性、課題などについても理解を深める。</li> </ul>
	9	エネルギーの科学(8時間)	
	10	エネルギーの科学(8時間)	
	11	エネルギーの科学(8時間)	
	12	地球の科学(6時間)	
	1	地球の科学(6時間)	・地球の仕組みや歴史、生物の進化・多様性について理解できる。(地学・生物分野)
	2	1年間のまとめ(6時間)	・持続可能な社会創造へ向け21世紀を生きる市民としての科学的素養についてのまとめ。
	3	総計(70時間)	
成績評価の方法	授業への取り組み、定期考査・提出課題(レポート)への取り組みをもとに総合的に評価を行う。		
履修上の留意点	・プリントを多用する予定なので、授業時にファイルを忘れないようにする。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
保健体育	生涯スポーツ	3年選択	2単位
目標 (到達目標)	各種の運動を通して、生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を身につける。		
使用教科書	なし		
使用副教材等	なし		
目標に向けての 学習活動	運動の実践や体験を通して、知識・理解を深め技能を高めて、仲間と協力して運動に親しむ活動とする。		
授業方法・形態	3年生選択者を二講座に分けておこなう		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	オリエンテーション(1時間) ニュースポーツ(10時間)	競技の特性を理解している。 集団で協力して動くことができる。 運動に親しもうとしている。 運動技能を高めようとしている。 健康・安全に注意しようとしている。
	5	スポーツ概論(3時間) 武道(6時間)	
	6	(合計:20時間)	
	7		
	8		
	9	競泳・救助法(10時間) ニュースポーツ(12時間)	
	10	スポーツ生理学(4時間) トレーニング理論(4時間)	
	11	(合計:30時間)	
	12	ニュースポーツ(8時間) 地域スポーツ(6時間)	
	1	スポーツ心理学(3時間) スポーツ栄養学(2時間)	
	2	評価・まとめ(1時間) (合計:20時間)	
3	(総計 70 時間)		
成績評価の方法	出席状況。授業観察。単元毎のテスト。ワークシート。		
履修上の留意点	指定の服装で授業に臨むこと。		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
芸術	音楽一般	3学年(選択)	2単位
目標 (到達目標)	より専門的に、より幅広く音楽を学習し豊かな感性を育てるとともに、将来各自に必要な知識・技能を身につけていく。 様々な経験により、将来の夢や目標などを探していく。		
使用教科書	なし		
使用副教材等	なし		
目標に向けての 学習活動	各自それぞれの分野で必要となるソルフェージュ・音楽理論・歌・ピアノを中心に、様々なことを幅広く学習する。また、コード学習等で即興的な才能も伸ばし、実技の技術を磨く。		
授業方法・形態	3年選択者		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	調査、ソルフェージュ、歌、ピアノ (20時間) (小計20時間)	1, 2年次で扱った内容をしっかりと復習できたか。
	5		2, 歌をしっかりと声を出しながら歌うことができたか。
	6		3, 積極的に取り組めたか。
	7	ソルフェージュ、歌、ピアノ 文化祭練習(15時間)	1, 1学期の継続。
	8		2, 文化祭に向けてしっかりと取り組むことができたか。
	9	ソルフェージュ、歌、ピアノ、音楽史 (15時間) (小計30時間)	3, 歌、ピアノの技術が向上しているが。
	10		1, ソルフェージュ及び歌、ピアノ等しっかりと取り組んでいるか。
	11		2, 発表の場でしっかりとできるか。
	12	ソルフェージュ、歌、ピアノ まとめ(20時間) (小計20時間) (総計70時間)	1. しっかりと題材に取り組むことができたか。
	1		2. 一年間を通しての学びがどれだけ浸透しているか。
	2		
3			
成績評価の方法	実技、プリント課題、出席状況、授業への取り組み状況を総合的に判断しておこなう。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業には「主体的に参加する」という姿勢で臨むこと。</li> <li>・より専門的な内容の授業になります。意欲を持って臨んでください。</li> </ul>		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数
芸術	美術一般	3学年	2単位
目標 (到達目標)	より専門的に、より幅広く美術を学習し豊かな感性を育てるとともに、将来各自に必要な知識を身につけていく。 様々な経験により、将来の夢や目標などを探していく。		
使用教科書	なし		
使用副教材等	なし		
目標に向けての 学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中は常に『完成度の高い作品(自分のイメージに近づける)にするにはどうしたらよいか』を考えながら行動する。</li> <li>日常生活の中でも、色や形(美しい,面白い)に興味を持つとよい。</li> </ul>		
授業方法・形態	3年生選択者		
実施予定	月	実施内容	評価の観点
	4	デッサンⅠ  (12時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な仕事ができたか</li> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>モチーフを観察できたか</li> <li>基礎が理解できたか</li> </ul>
	5		
	6	制作Ⅰ  (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な仕事ができたか</li> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>たくさんアイデアを出せたか</li> <li>独創的で完成度の高い作品になったか</li> </ul>
	7		
	8	デッサンⅡ  (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な仕事ができたか</li> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>モチーフを観察できたか</li> <li>基礎が理解できたか</li> </ul>
	9		
	10	制作Ⅱ  (20時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な仕事ができたか</li> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>たくさんアイデアを出せたか</li> <li>独創的で完成度の高い作品になったか</li> </ul>
	11		
	11	デッサンⅢ  (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な仕事ができたか</li> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>モチーフを観察できたか</li> <li>基礎が理解できたか</li> </ul>
12			
1~2	制作Ⅲ  (20時間) (総計70時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧な仕事ができたか</li> <li>準備片づけがしっかりできたか</li> <li>たくさんアイデアを出せたか</li> <li>独創的で完成度の高い作品になったか</li> </ul>	
成績評価の方法	授業への取り組み、提出物、出席状況、作品の完成度等の状況を判断して行う。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中は、作品制作に集中すること。</li> <li>忘れ物をしない、準備片づけをする等あたりまえのことを疎かにしないこと。</li> <li>作品の意図を理解し、提出期限を守ること。</li> </ul>		

教科名	科目名	履修学年(コース)	履修単位数	
外国語	実践英語	3学年	2単位	
目標 (到達目標)	進路実現に対応し得る英語力を定着させ、グローバル社会に向けた実践力へと発展させる。			
使用教科書	自主作成プリント			
使用副教材等				
目標に向けての 学習活動	より発展的な語彙力、文法力、読解力、リスニング力を身につけるための力の定着を目指し授業の聴講、理解、板書、言語活動、課題を通して総合的な学習を行う。定期的に課題の提出を求め、小テストを行い、入試過去問に取り組み、英語検定を受験して学力を伸長する。			
授業方法・形態	3年生選択者			
実施予定	月	実施内容	評価の観点	
	4	教材1～2 (4時間)	1 関心・意欲・態度 ① 予習・授業・復習のノート整理 ② 課題・宿題の提出 ③ 積極的発言 ④ 異文化に関する基本的知識を基にした自分の意見表現 2 表現力 ① 明確な声での発言 ② 英語での表現 3 理解力 既習の音声及び英文の理解 4 知識 ① 英文理解に必要な基本的な語彙力及び文法力 ② 単語、熟語、英文の小テストでの合格 ③ 長文問題の内容理解	
	5	教材3～4 【中間考査】 ※連休の課題 (8時間)		
	6	教材5～6 【期末考査】 第一回英語検定一次 (8時間) (小計20時間)		
	7	教材7～8 第一回英語検定二次 (4時間) ※夏休み課題		
	8	教材9 (2時間)		
	9	教材10～11 【中間考査】 (8時間)		
	10	教材11～12 第二回英語検定一次 (8時間)		
	11	総合問題演習 【期末考査】 第二回英語検定二次 (8時間) (小計30時間)		
	12	総合問題演習 ※冬休み課題 (6時間)		
	1	総合問題演習 第三回英語検定一次 (8時間)		
	2	総合問題演習 【卒業試験】 第三回英語検定二次 (6時間) (小計20時間) (計70時間)		
	成績評価の方法	5回の定期考査、課題、提出物、出席状況、授業への取組みを総合的に評価する。		
履修上の留意点	英語検定は2級を上限に、第一回、第二回で全員が受験する。 予習、復習を継続的に行い、学習を習慣化する。 必要な提出物や課題を提出する。 必要な教材は必ず携行する。			